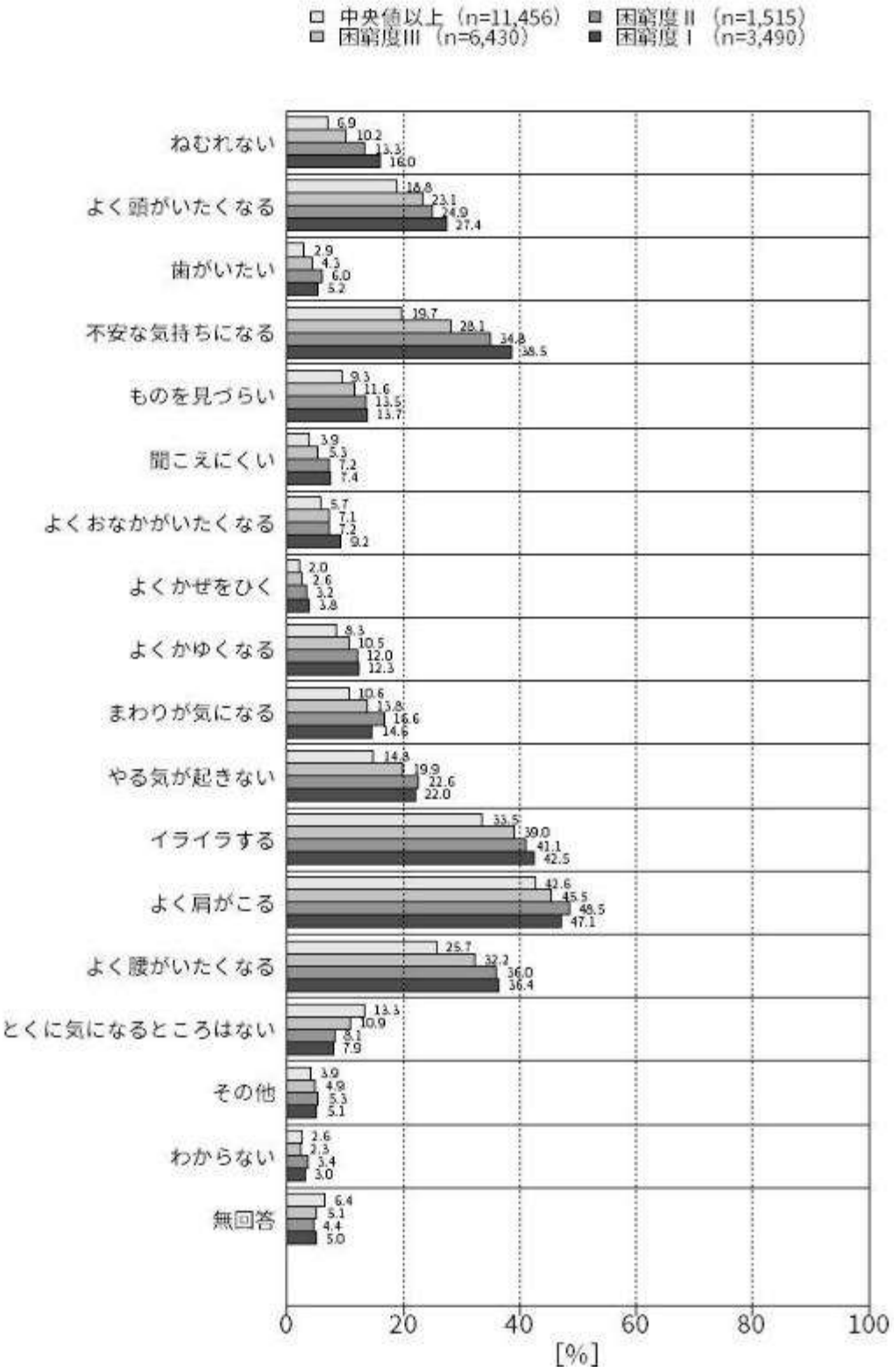
困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

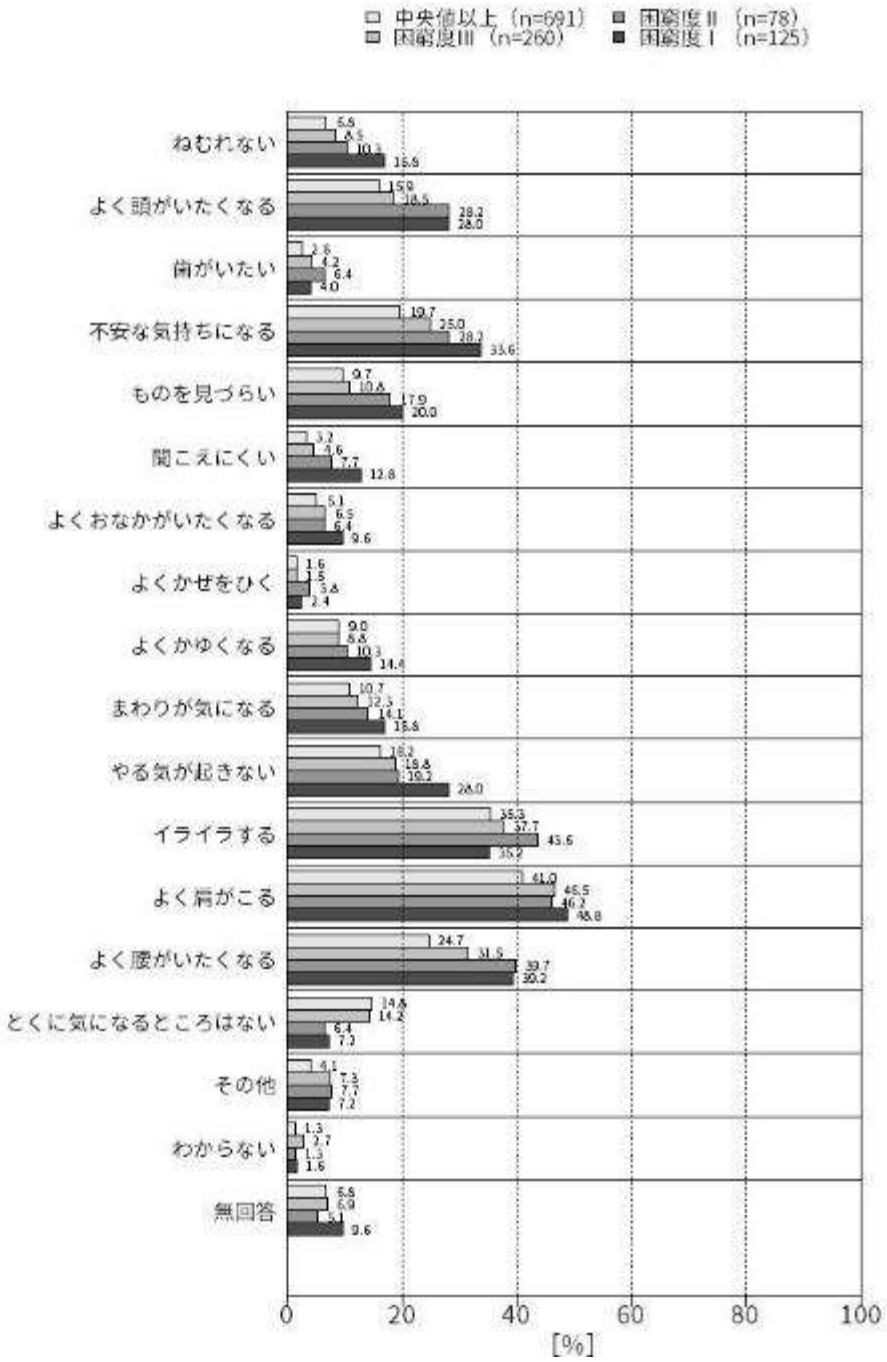
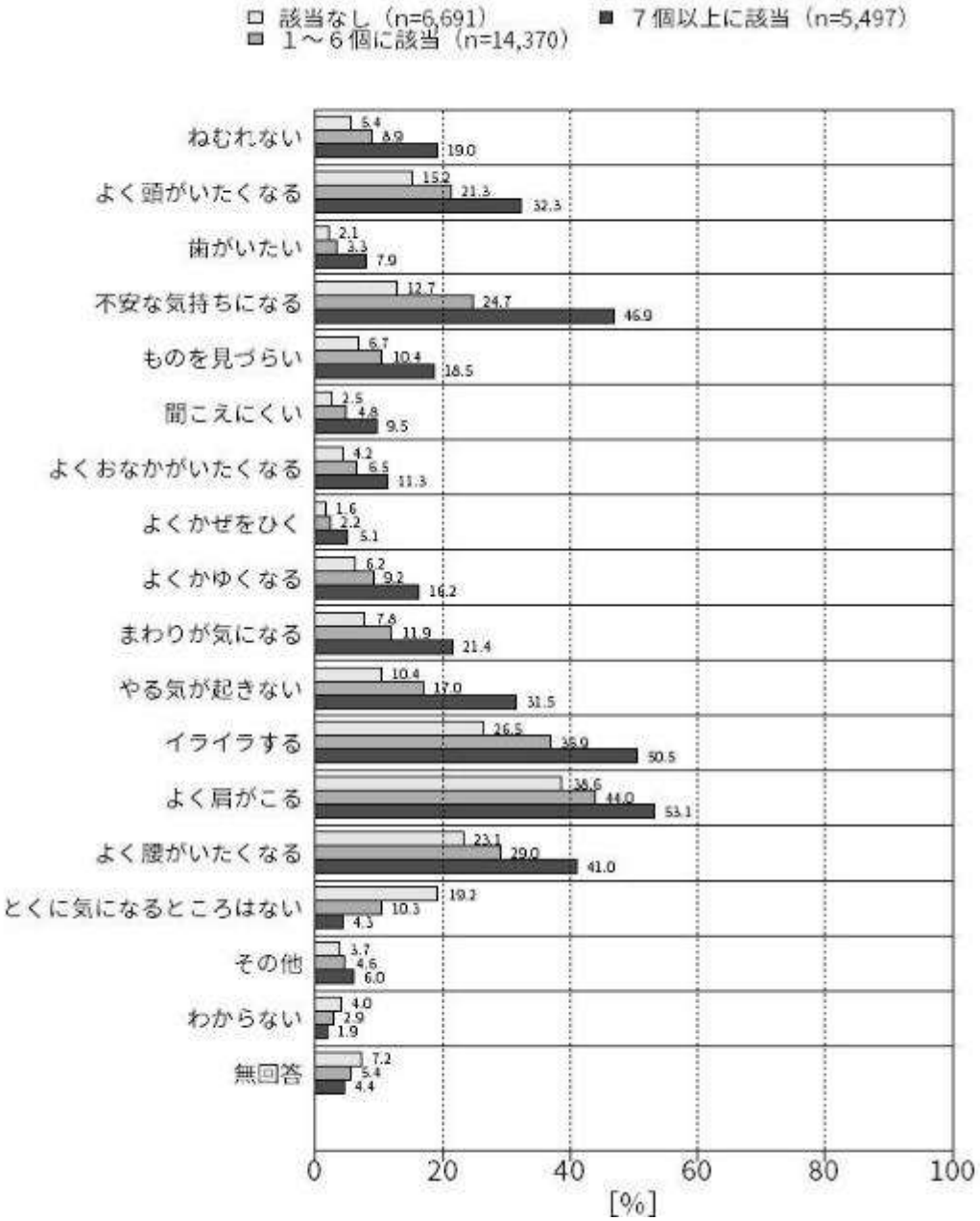


図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「聞こえにくい」12.8%（中央値以上群に対して、4 倍、「ねむれない」16.8%（2.5 倍）、「ものを見づらい」20%（2.1 倍）となっている。つづいて、「よくおなかがいたくなる」9.6%（1.9 倍）、「よく頭がいたくなる」28%（1.8 倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 7 × 保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

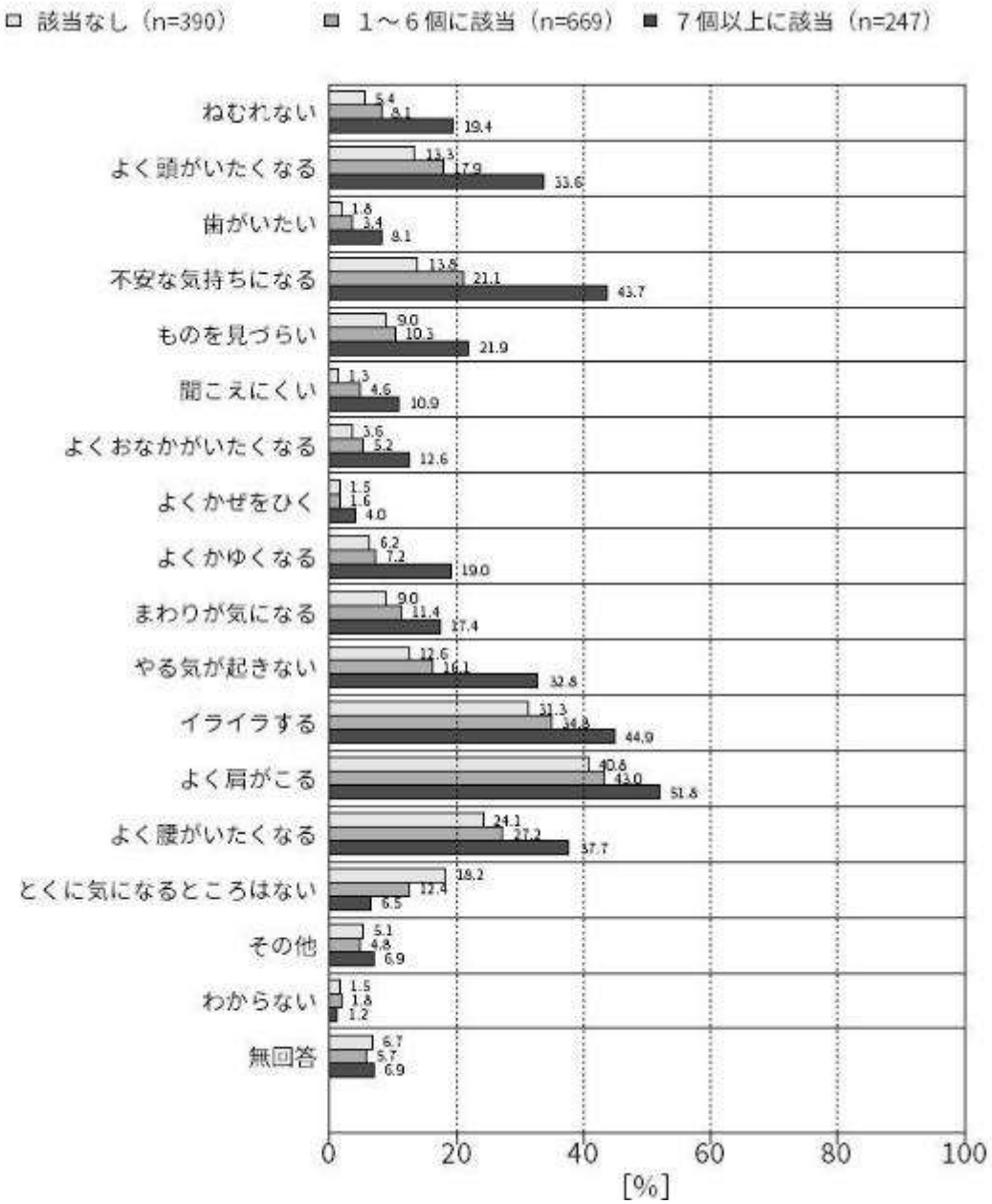
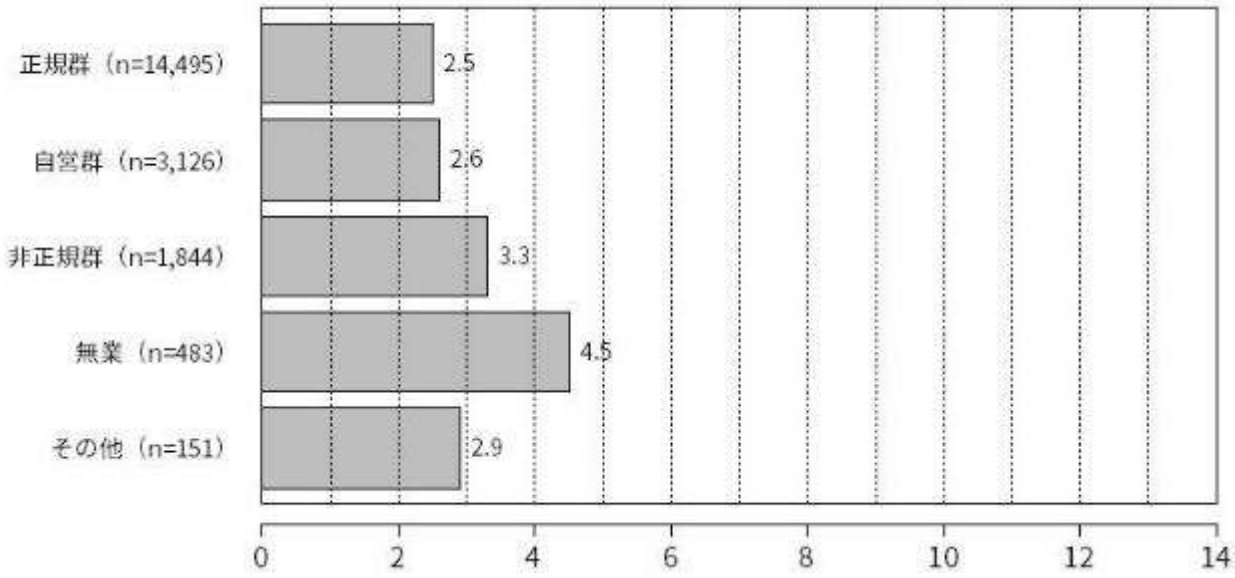


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「聞こえにくい」10.9%（「該当なし」に対し8.4倍）、「歯がいたい」8.1%（4.5倍）、「ねむれない」19.4%（3.6倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」44.9%（1.4倍）、「やる気が起きない」32.8%（2.6倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

就労状況別に見た、 自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

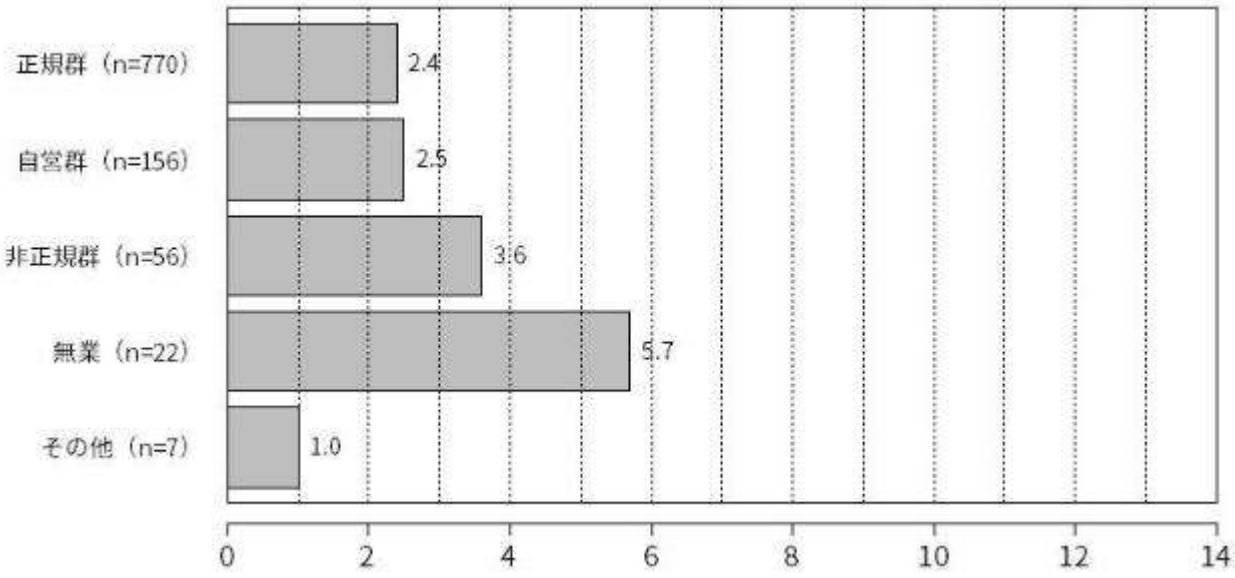


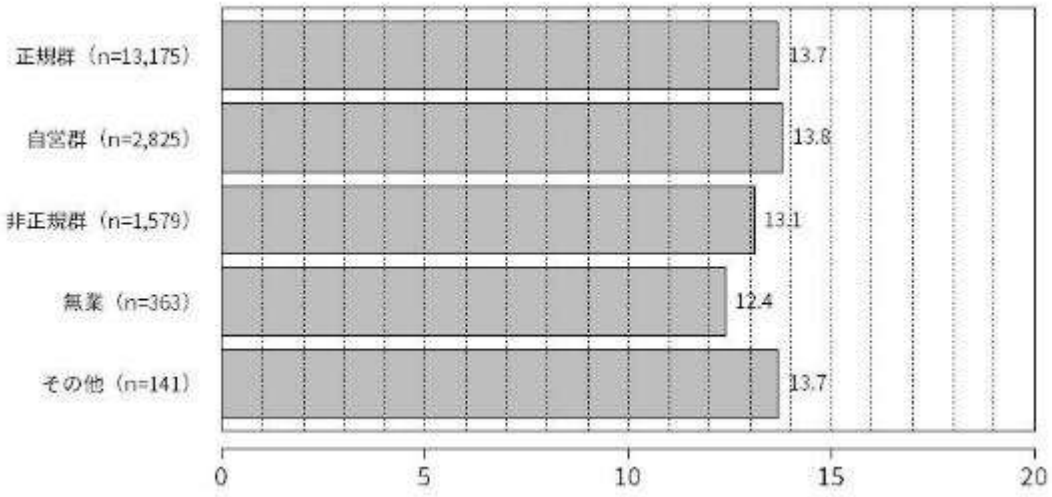
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.4 個、「自営業」では 2.5 個、「非正規群」では 3.6 個、「無業」群では 5.7 個であった。

就労状況別に見た、 保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票　問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の 5 項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの 4 段階で評価させ、5 項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

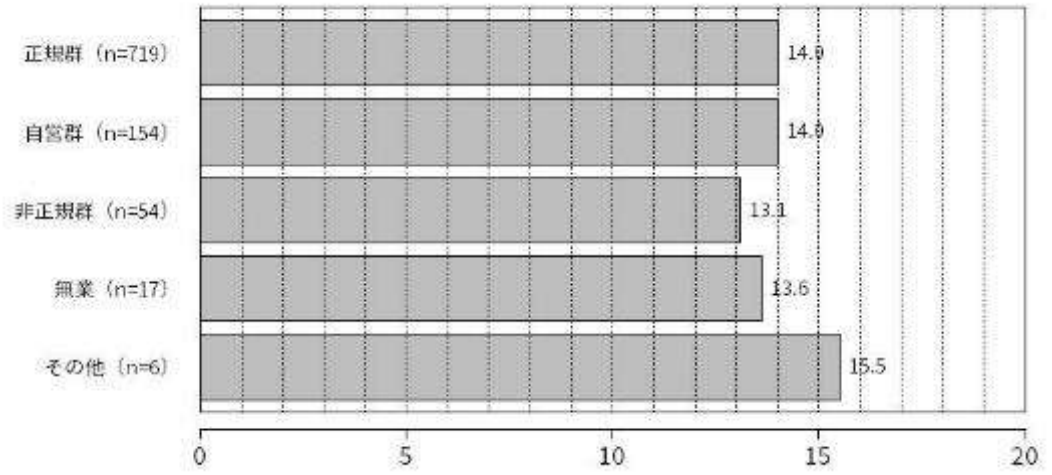


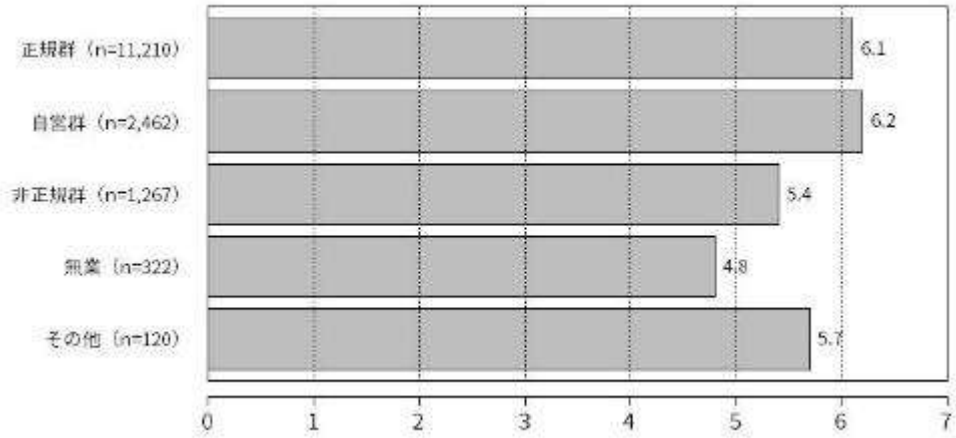
図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 14.0 点、「自営業」では 14.0 点、「非正規群」では 13.1 点、「無業」群では 13.6 点であった。

就労状況別に見た、 支えてくれる人得点（保護者票　問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の 7 項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を 0 点、「いる」を 1 点とし、7 項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

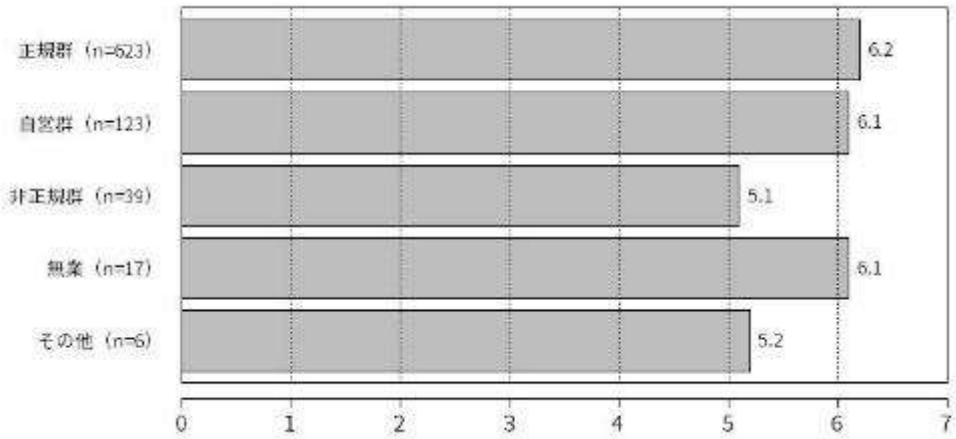
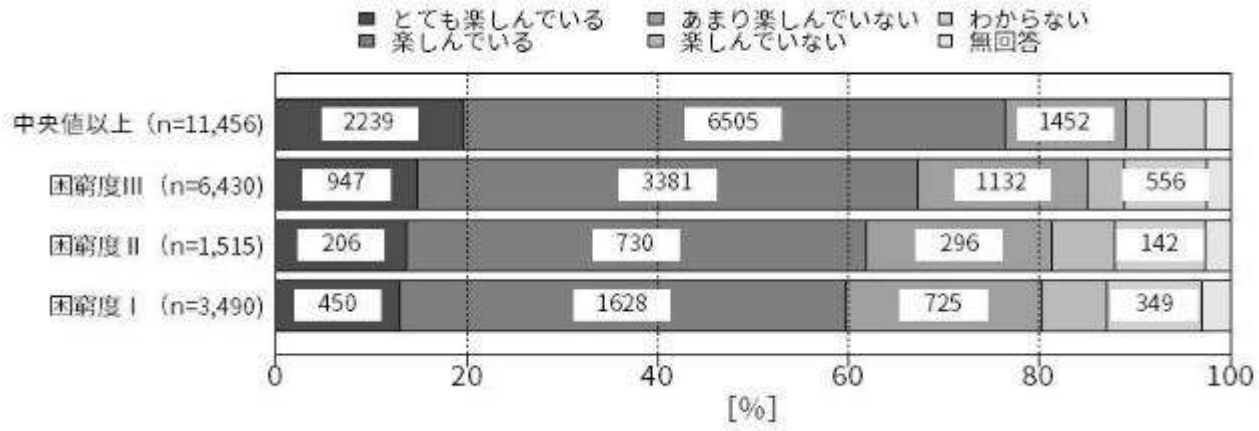


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では 6.2 点、「自営群」では 6.1 点、「非正規群」で 5.1 点、「無業」で 6.1 点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

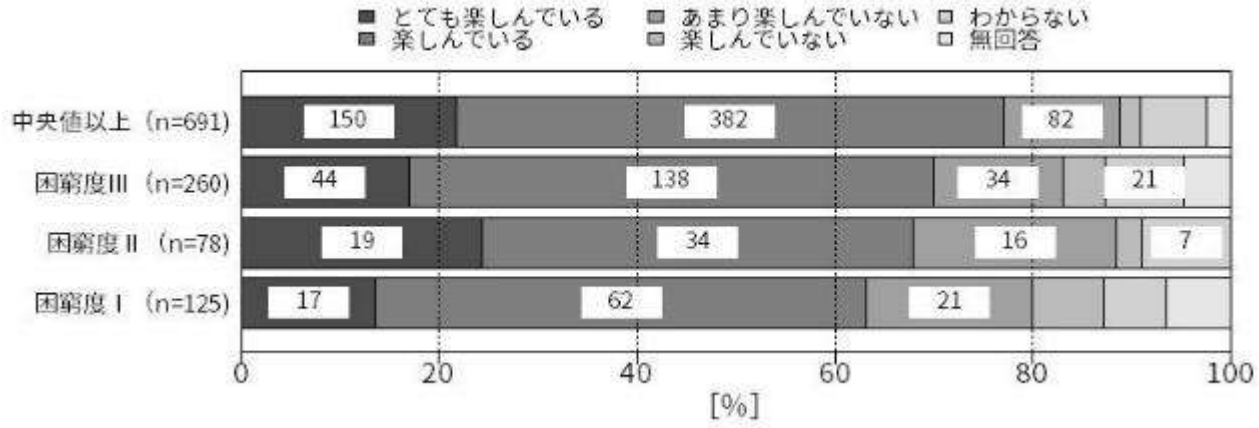
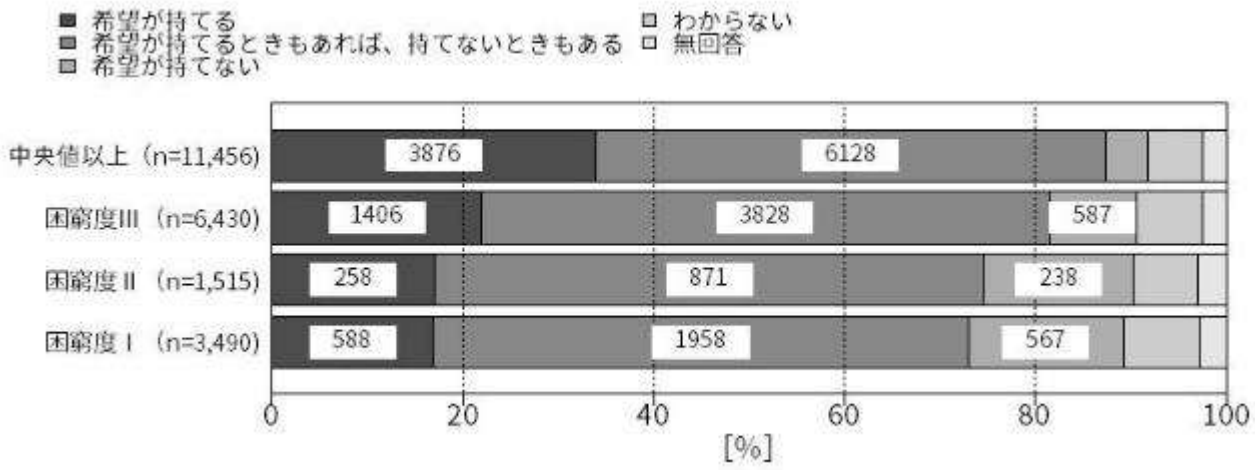


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 77.0% であり、困窮度が高まるにつれて、「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいない」と回答した割合は、中央値以上群で 2.0%、困窮度Ⅲ群で 4.2%、困窮度Ⅱ群で 2.6%、困窮度Ⅰ群で 7.2%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

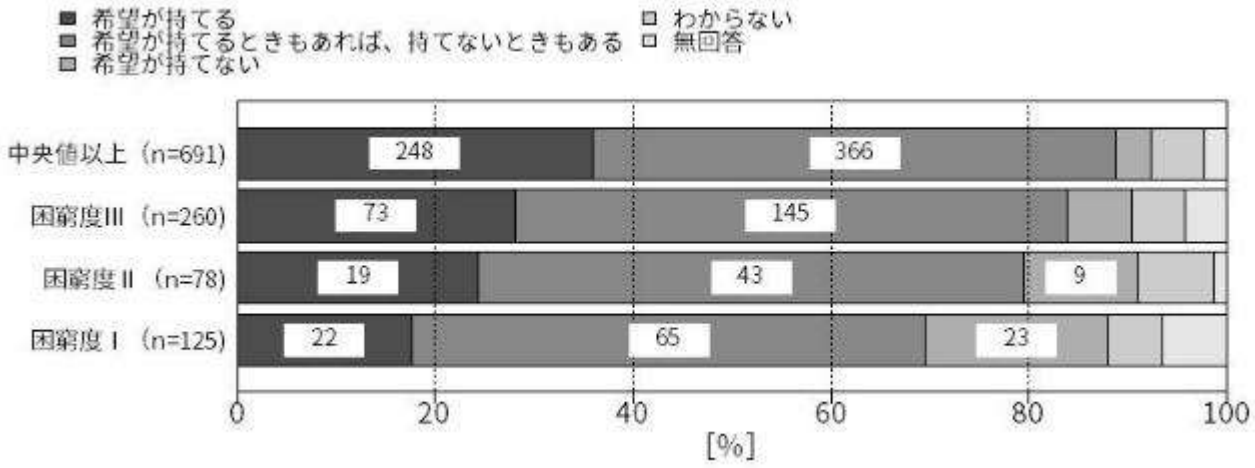
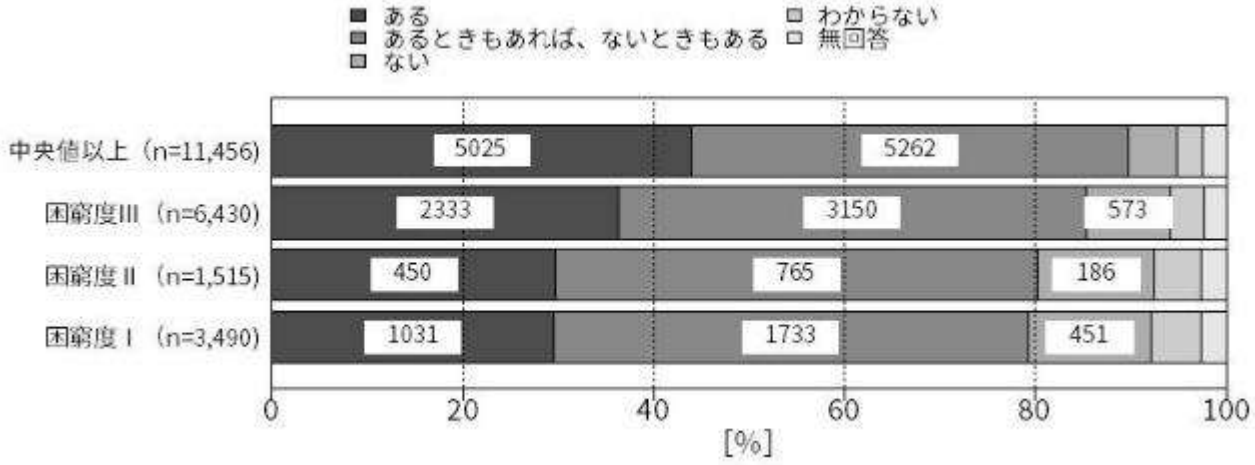


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では、35.9%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では 28.1%、困窮度Ⅱ群では 24.4%、困窮度Ⅰ群では、17.6%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

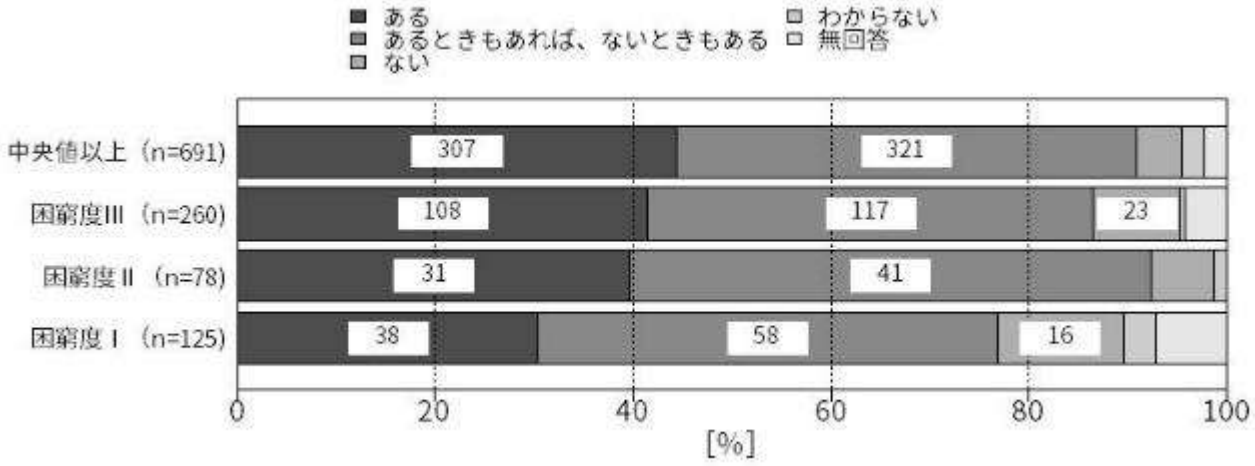
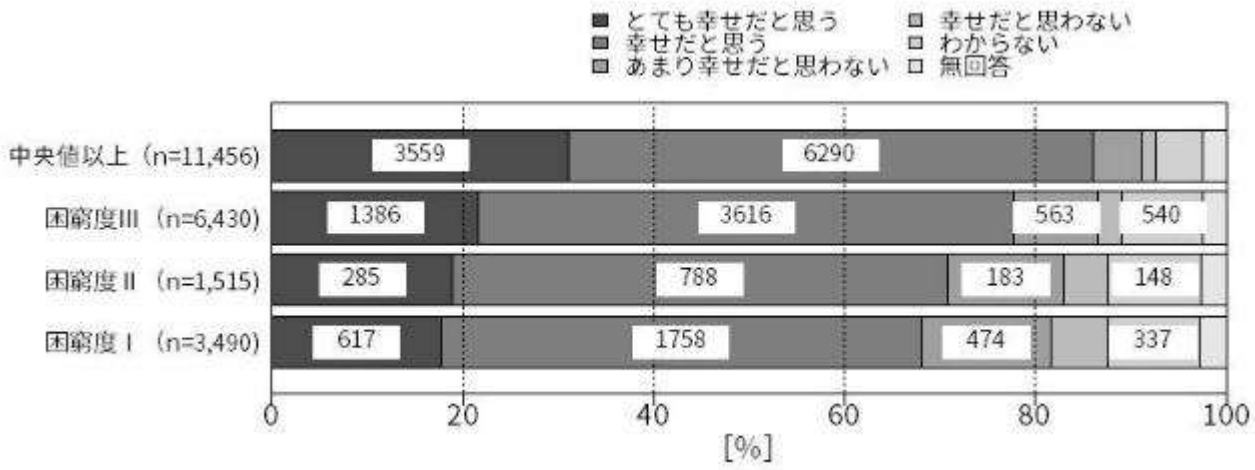


図 201．困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、中央値以上群では 4.6 %、困窮度Ⅲ群 8.8 %、困窮度Ⅱ群 6.4 %、困窮度Ⅰ群 12.8 %となっている。また、困窮度が高まるにつれて、「ある」と回答した割合も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

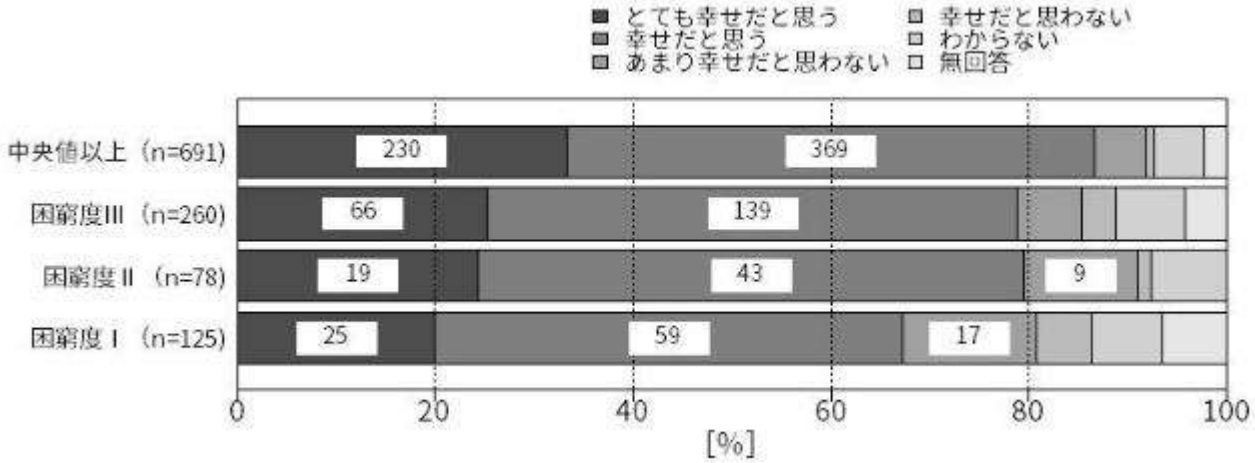
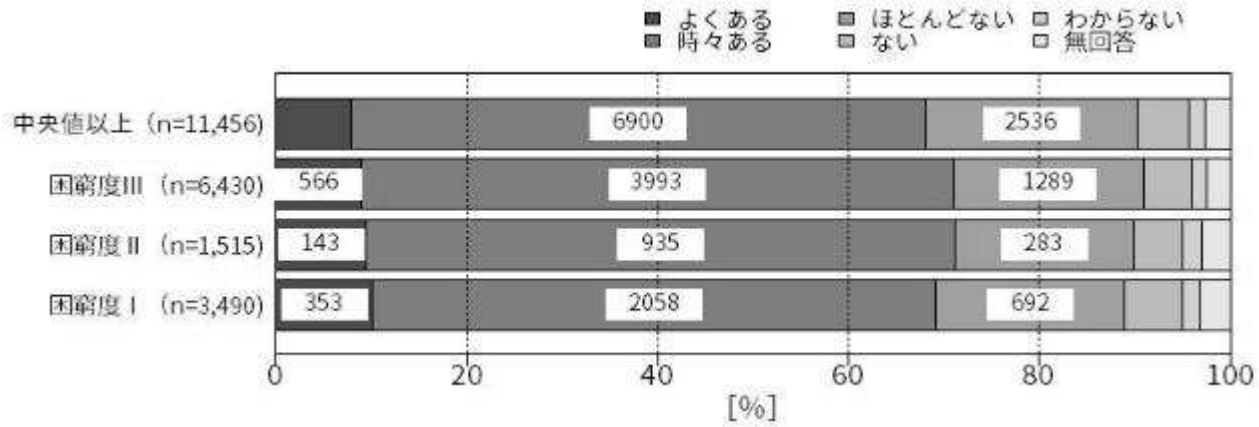


図 202．困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」あわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」あわせた割合が高くなり、中央値以上群では 6.1 %で、困窮度Ⅲ群 10.0 %、困窮度Ⅱ群 12.8 %、困窮度Ⅰ群 19.2 %となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

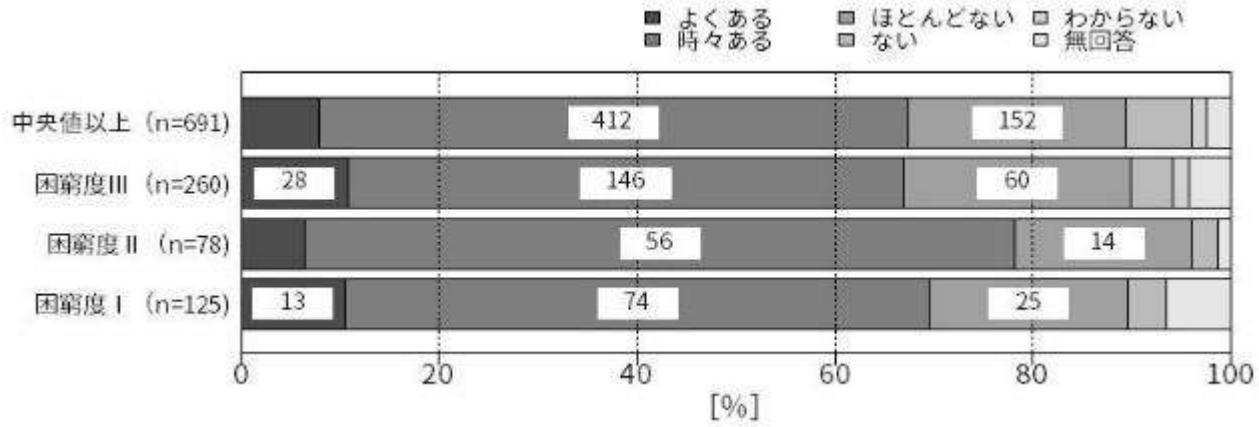
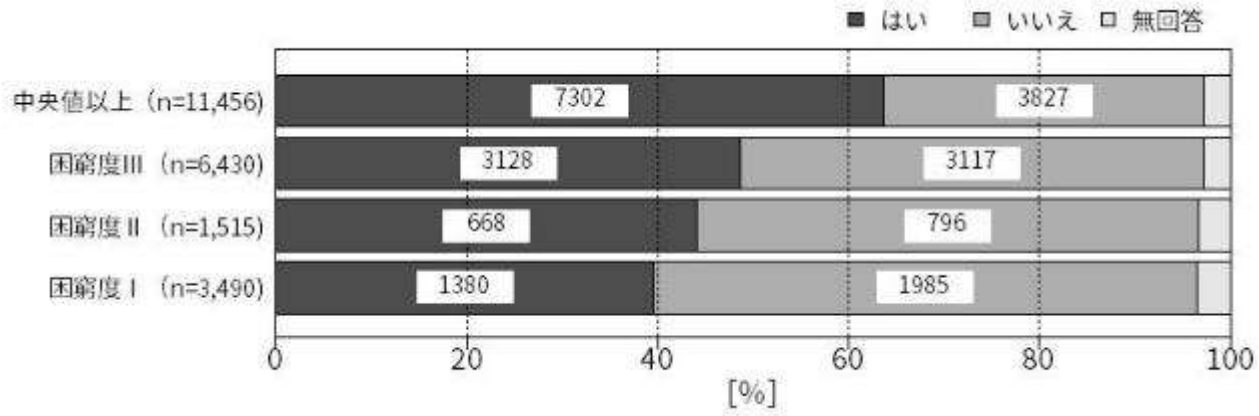


図 203．困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、中央値以上群では、「よくある」7.8 %であったのに対し、困窮度 I 群では 10.4 %であった。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票　問 28）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

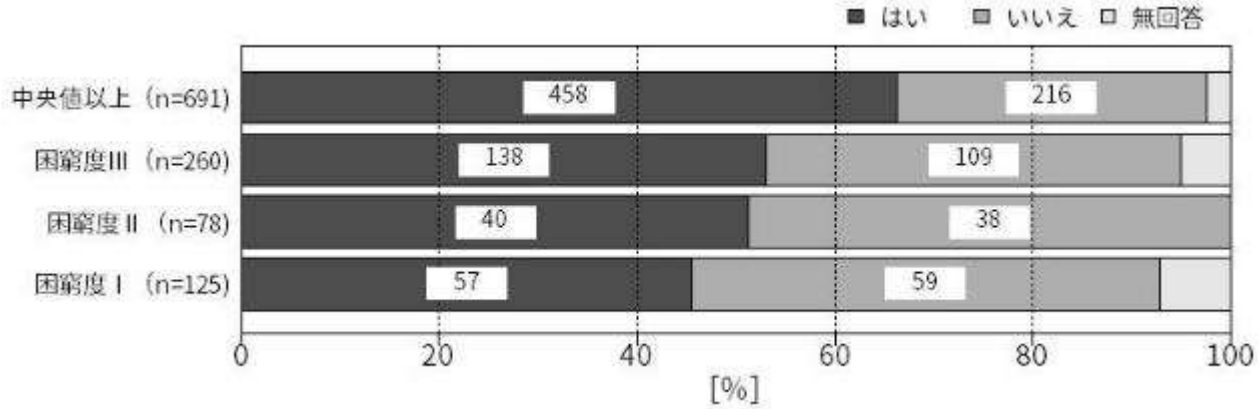
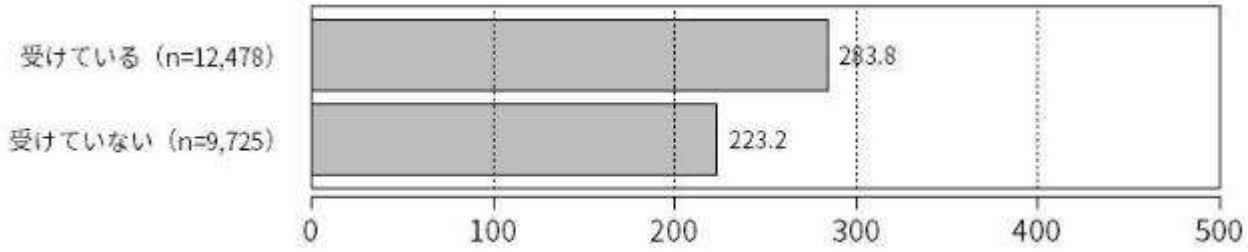


図 204.　困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 66.3％であり、困窮度Ⅰ群では 45.6％であった。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）
（保護者票　問 28 × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

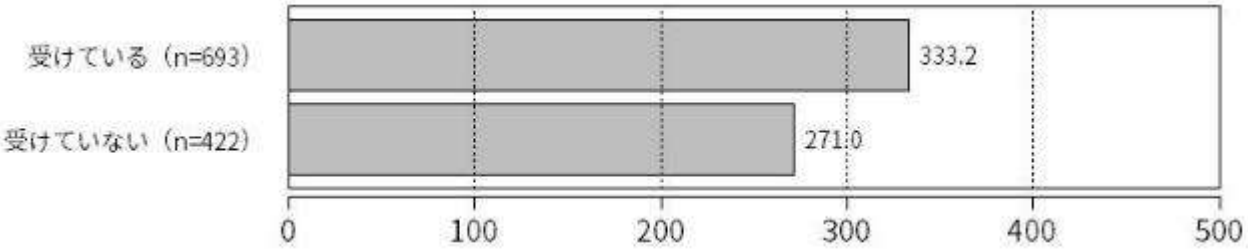


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 333.2 万円、「受診なし」では 271 万円と等価可処分所得について差が見られた。

＜健康に関する考察＞

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、週に1度も朝食を「食べない」と回答した割合が3.2%となっている（大阪市全体3.6%）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が66.7%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は52.5%と、「毎日またはほとんど毎日」の人のほうが「よく会話をする」の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.9点（大阪市18.7点）、「週5回以下」では、17.2点（大阪市17.2点）と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。困窮度別に入浴頻度（5歳児）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合が低くなるものの、「週に1回程度」以下の回答は見られなかった。

心身の自覚症状（子ども）について、困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「やる気が起きない」36.3%、（大阪市27.2%）、「不安な気持ちになる」25.8%（大阪市19.7%）、「イライラする」22.6%（大阪市27.6%）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合が高い結果となっている。これらの心身の症状が学習状況に影響を与えていると推測される。心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「よく肩がこる」48.8%（大阪市47.1%）、「よく腰がいたくなる」39.2%（大阪市36.4%）、「イライラする」35.2%（大阪市42.5%）となっている。

生活を楽しんでいるか、将来への希望、ストレスを発散できるものかあるか、幸福度、を困窮度別に見ると、中央値以上群に対して、それ以外の群では、肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られた。

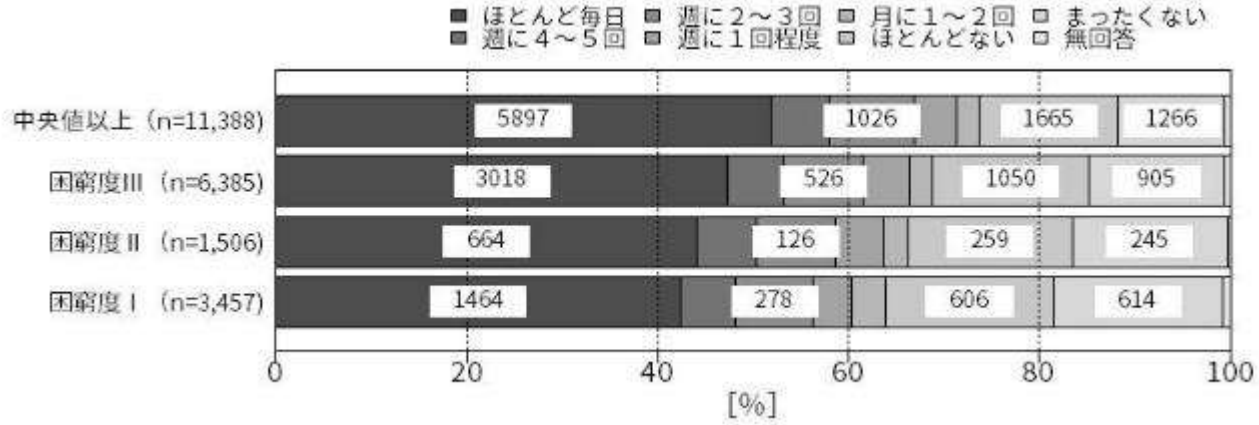
困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られないものの、中央値以上群では、「よくある」が7.8%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では10.4%と困窮度Ⅰ群の割合が高くなった。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が高く、困窮度Ⅰ群（45.6%、大阪市39.5%）が低くなっている。

３－４．家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか） （子ども票　問 10①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

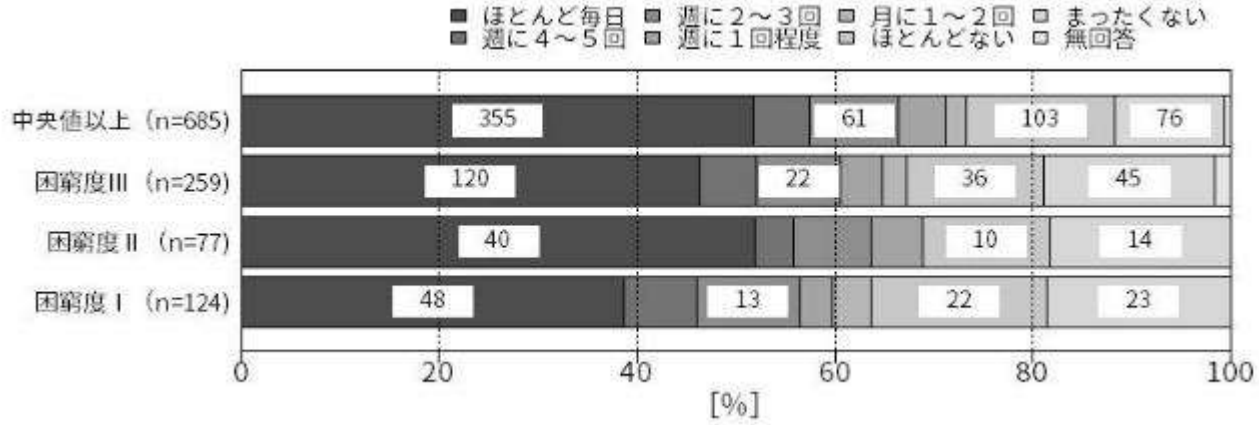
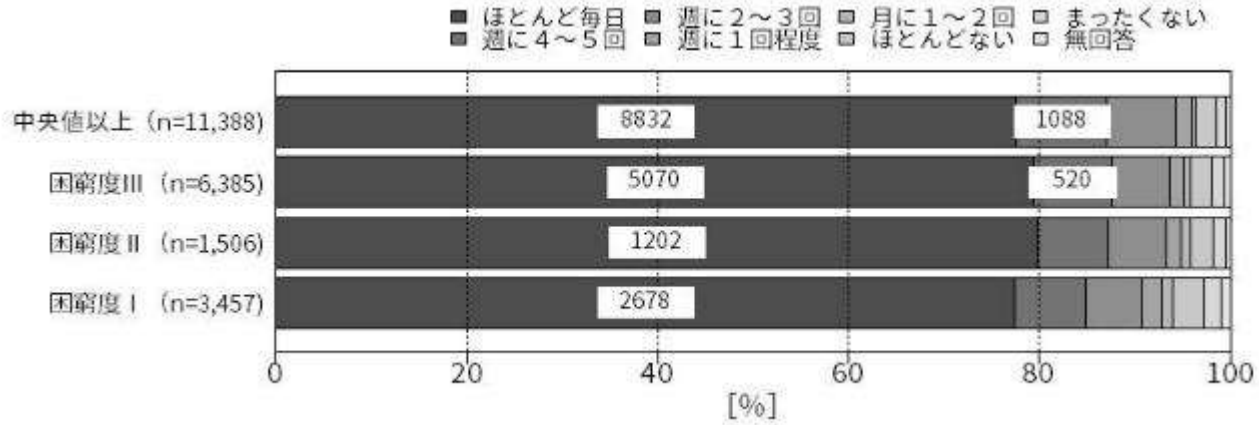


図 206．困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんど毎日」と回答した人の割合が低くなる傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくない」が 18.5%、「ほとんどない」が 17.7%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

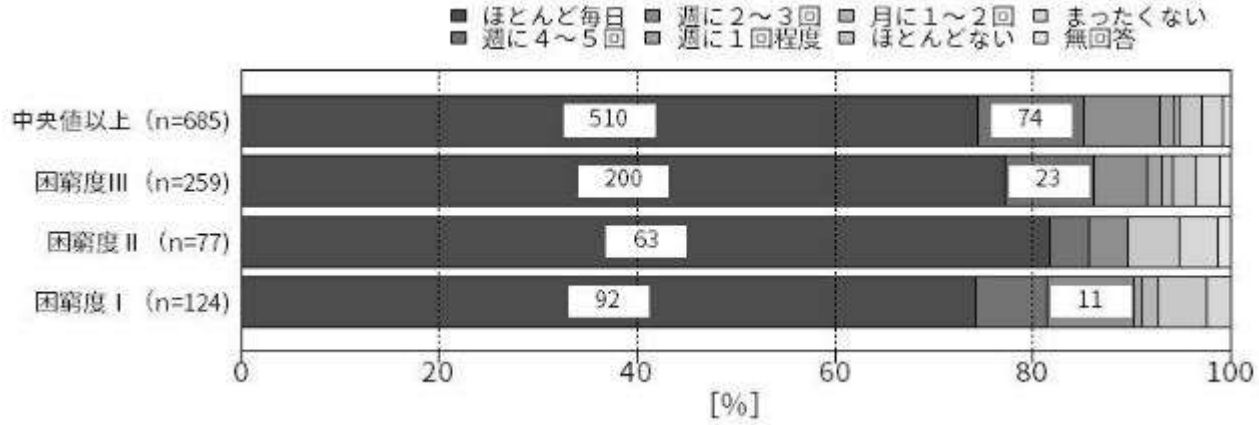
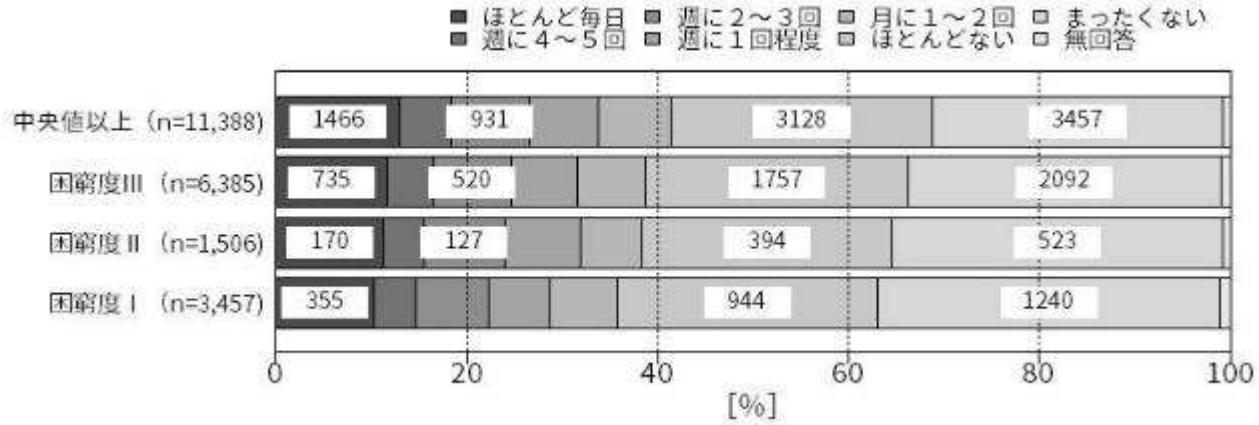


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票　問 10⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

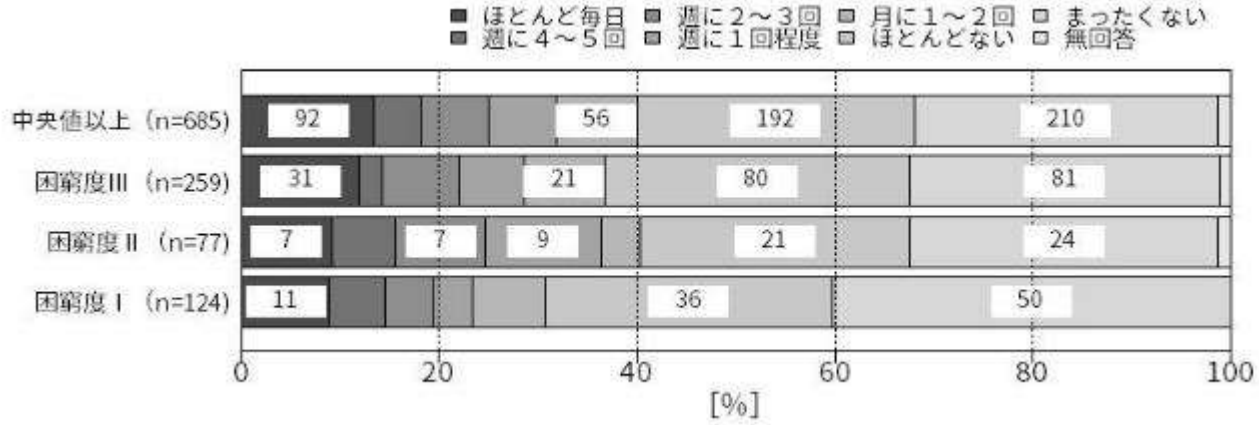
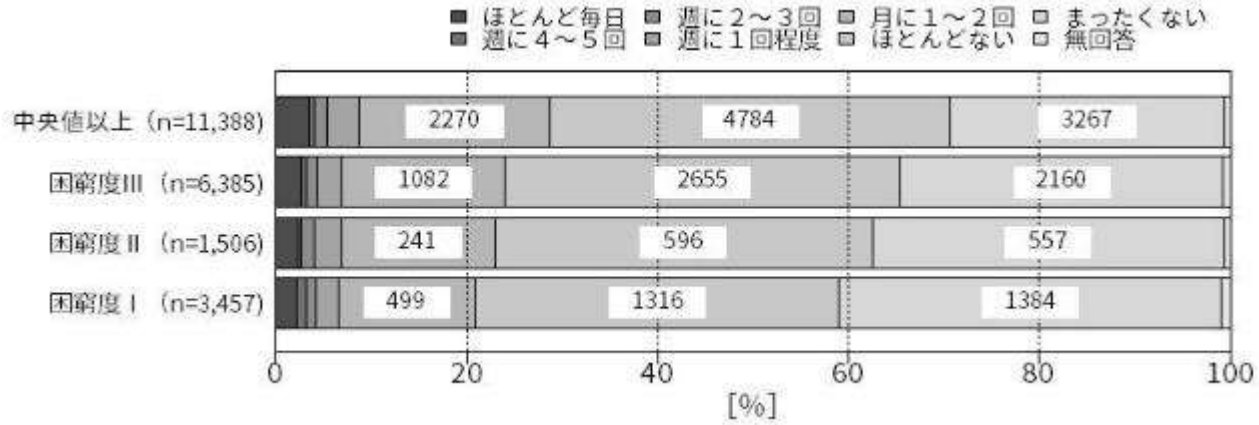


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（子ども票　問 10⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

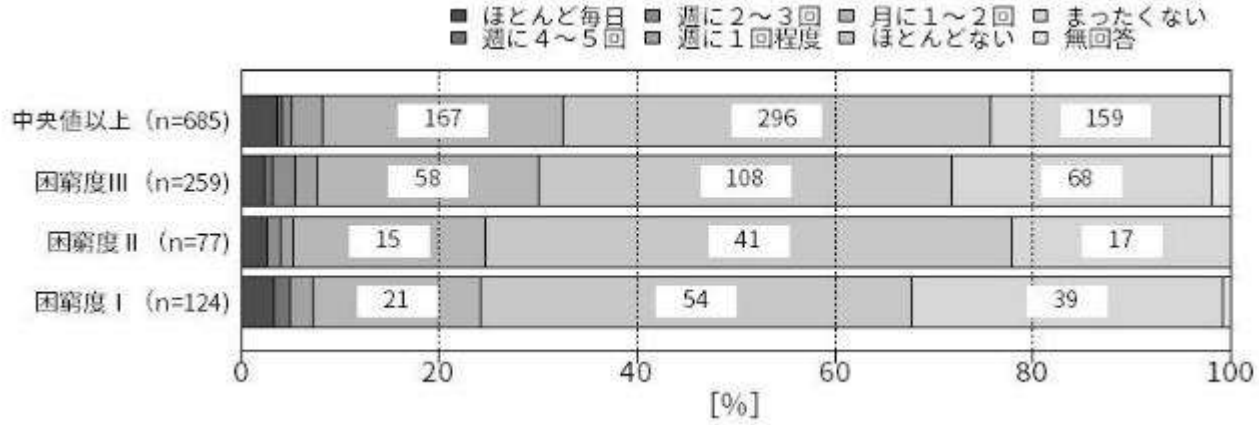
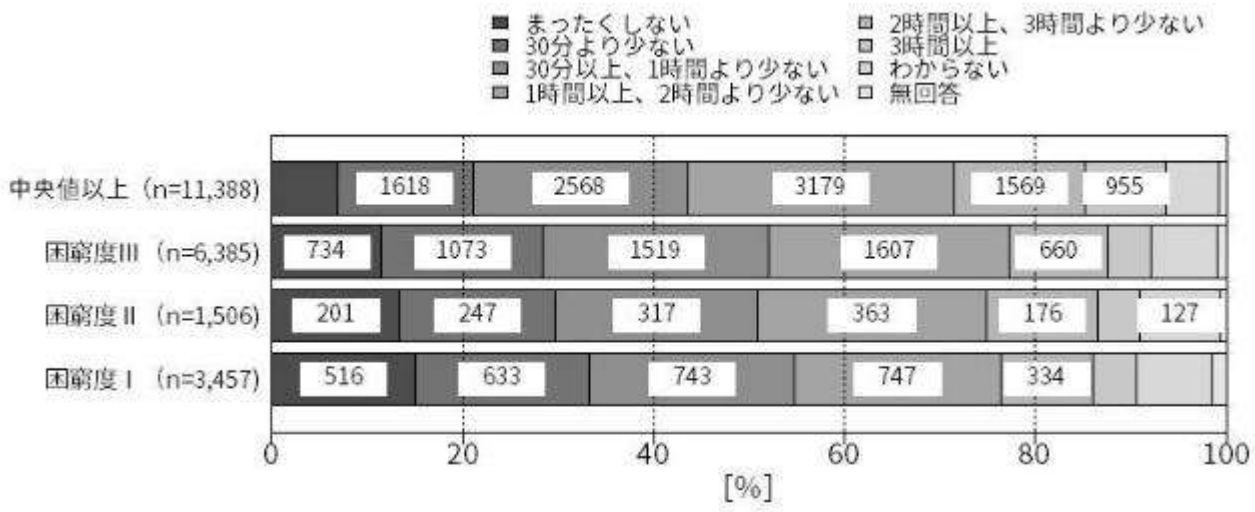


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどない」・「まったくない」と回答した人の割合が高い傾向にあった。困窮度 I 群では、「ほとんどない」と回答した人は 43.5%、「まったくない」と回答した人が 31.5%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

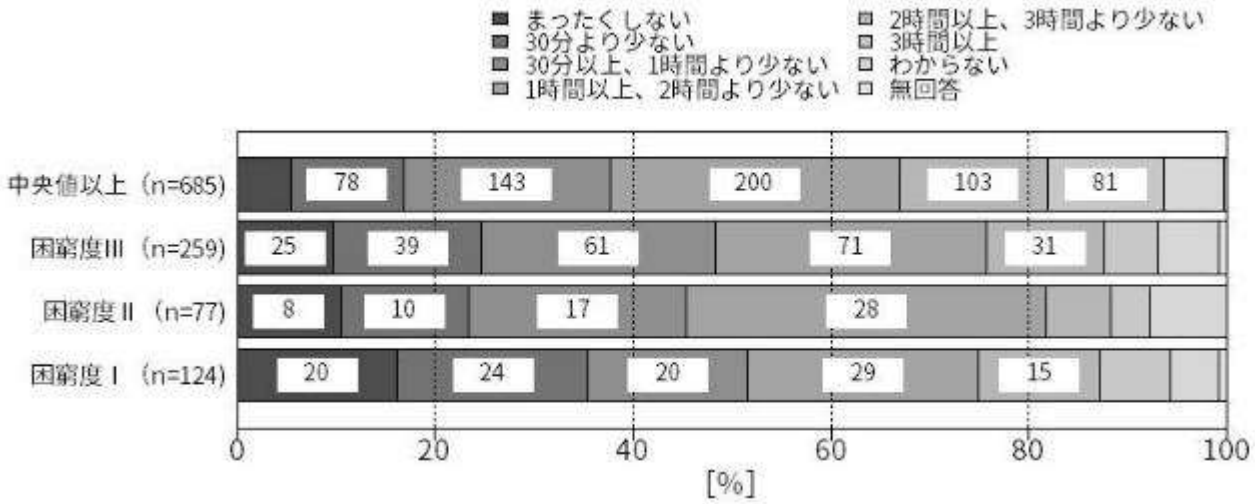
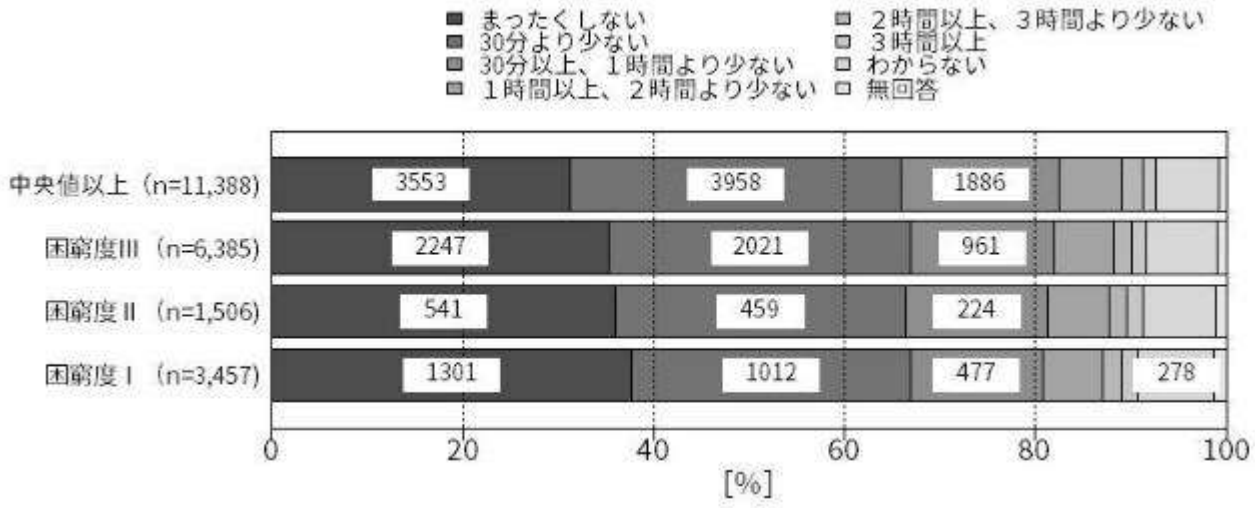


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30 分より少ない」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 16.1％であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

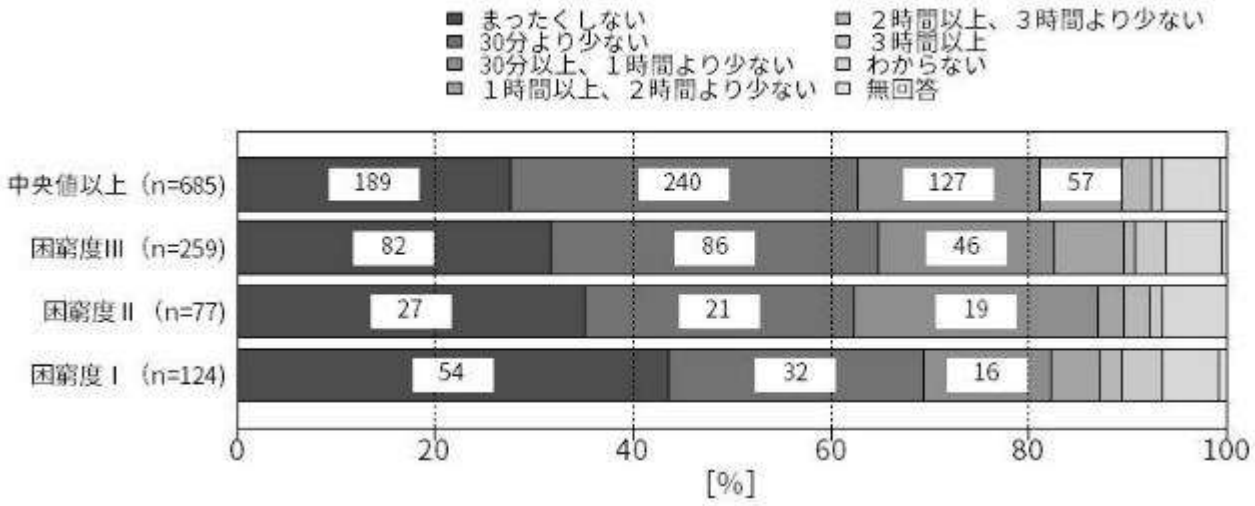
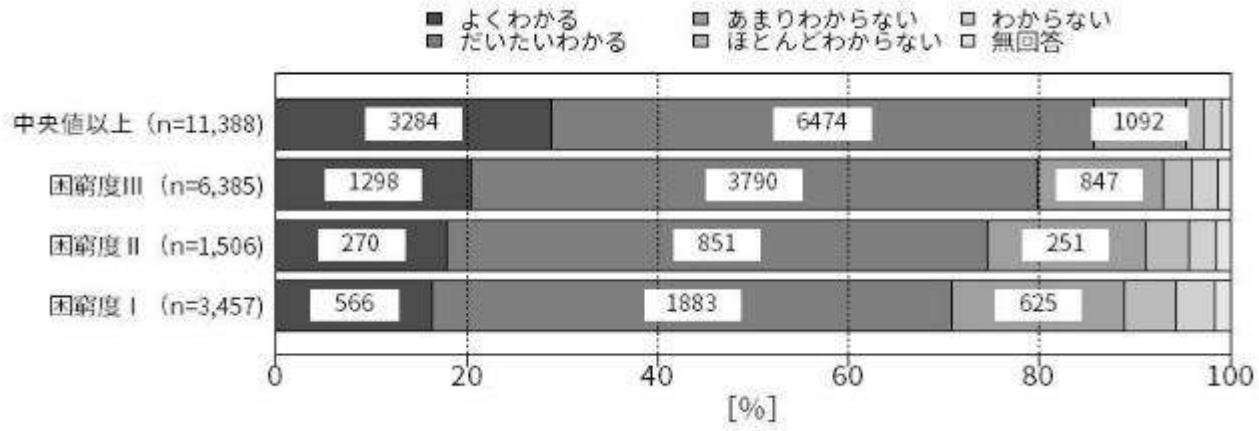


図 211．困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 43.5%であった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

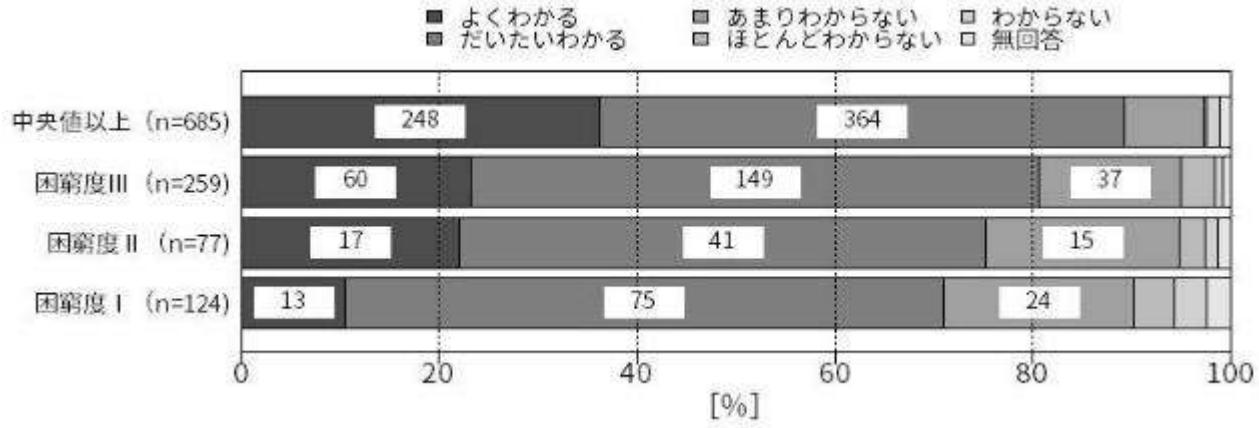
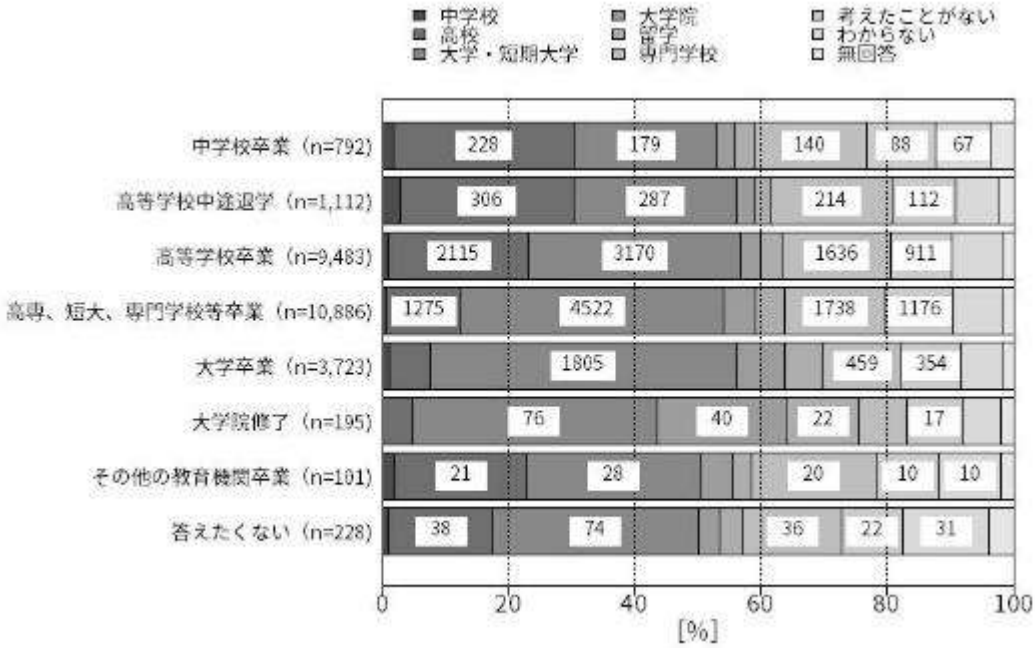


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にあった。困窮度 I 群では、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人は 7.2%であった。逆に「よくわかる」の割合は低くなっている。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

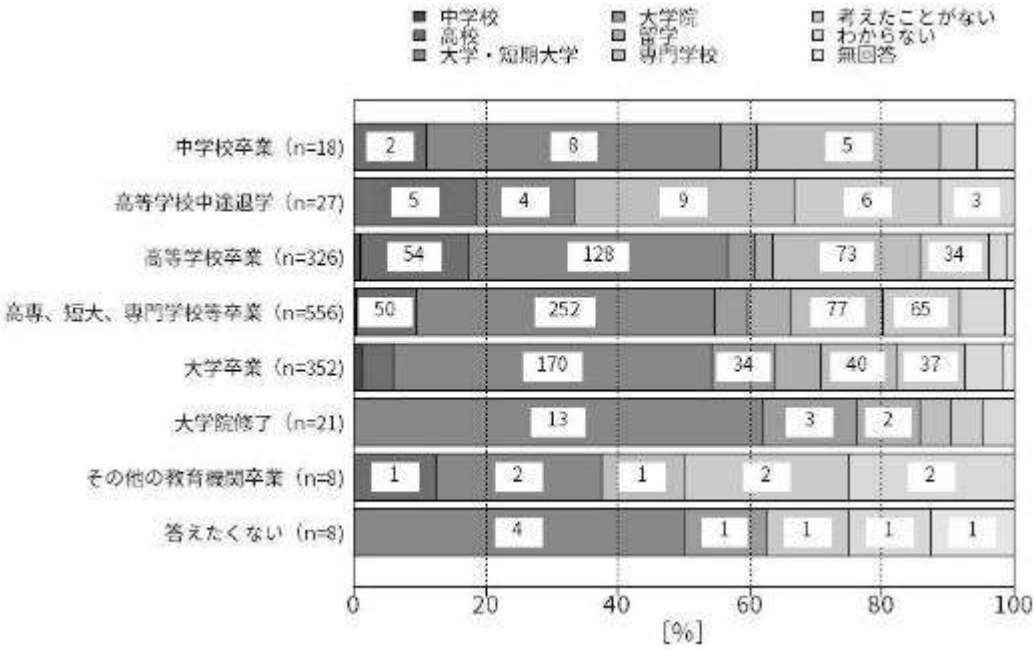
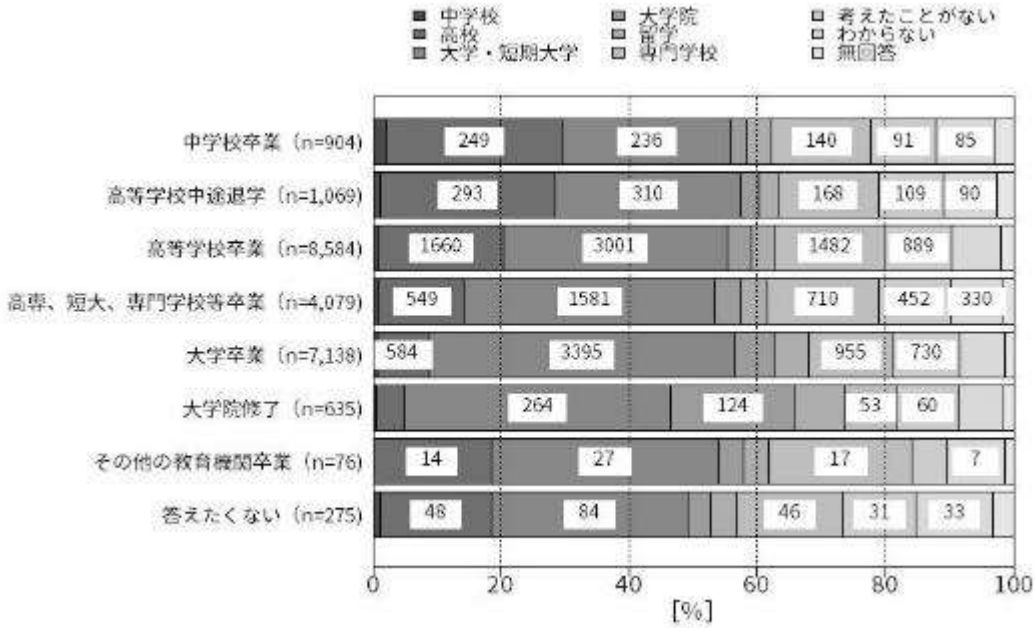


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒、高校中退者または高卒者では、「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

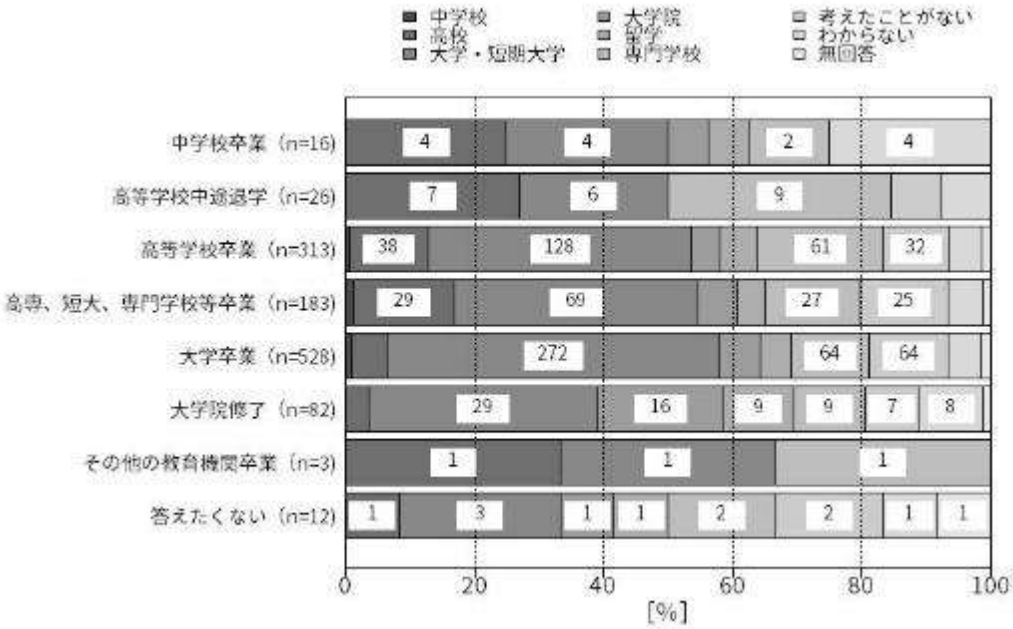
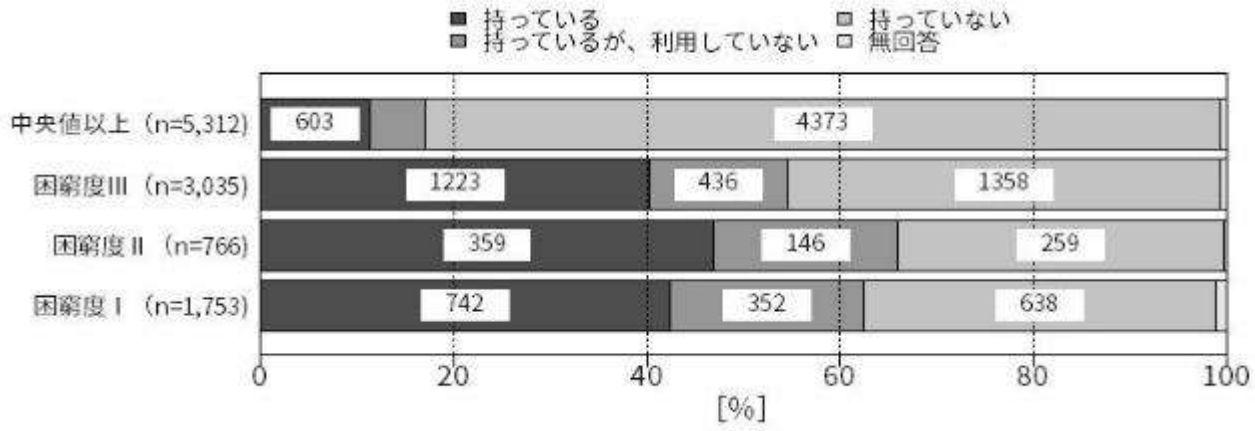


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にあった。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

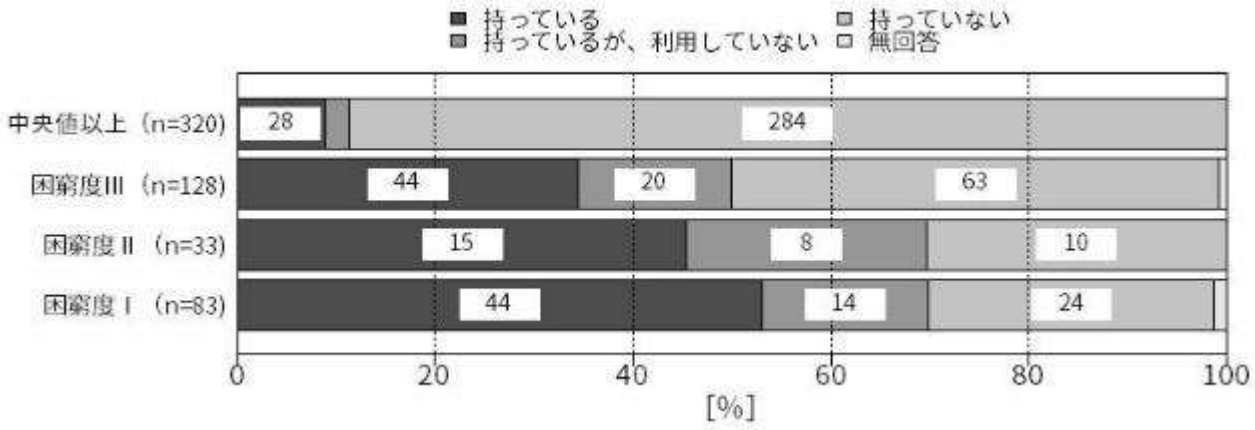
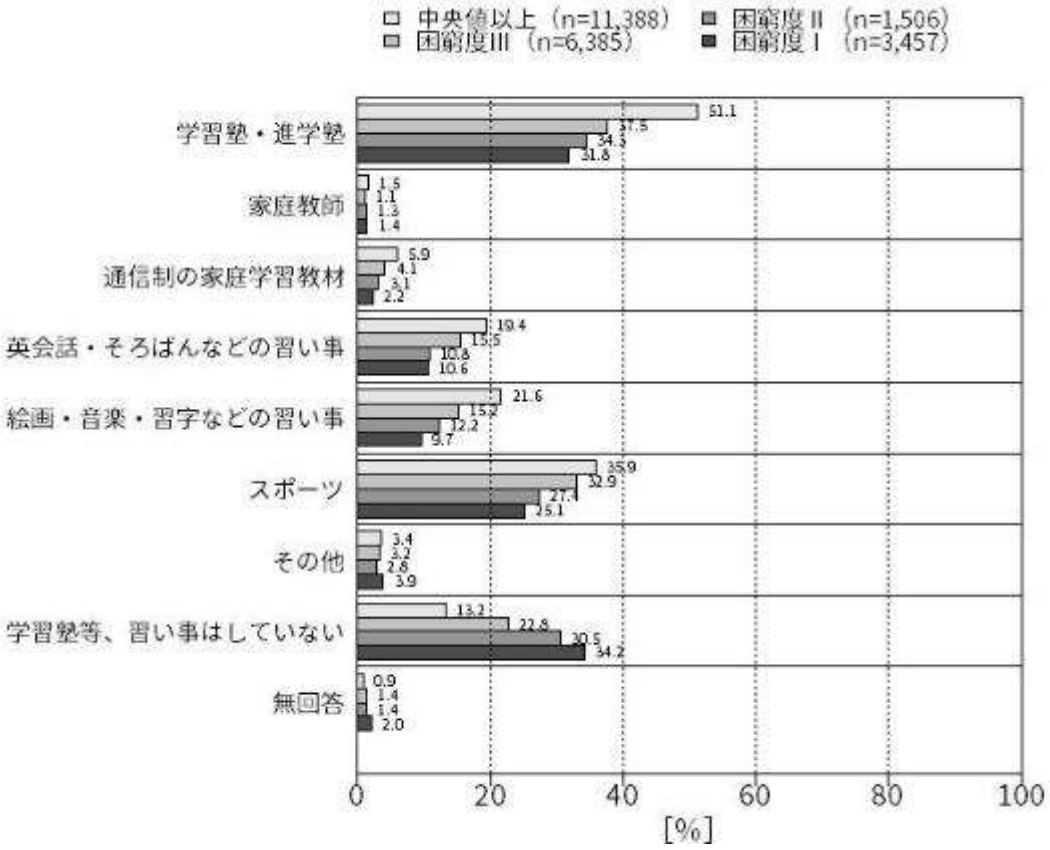


図 215.　困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が 53%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 45.5%、困窮度Ⅲ群では 34.4%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

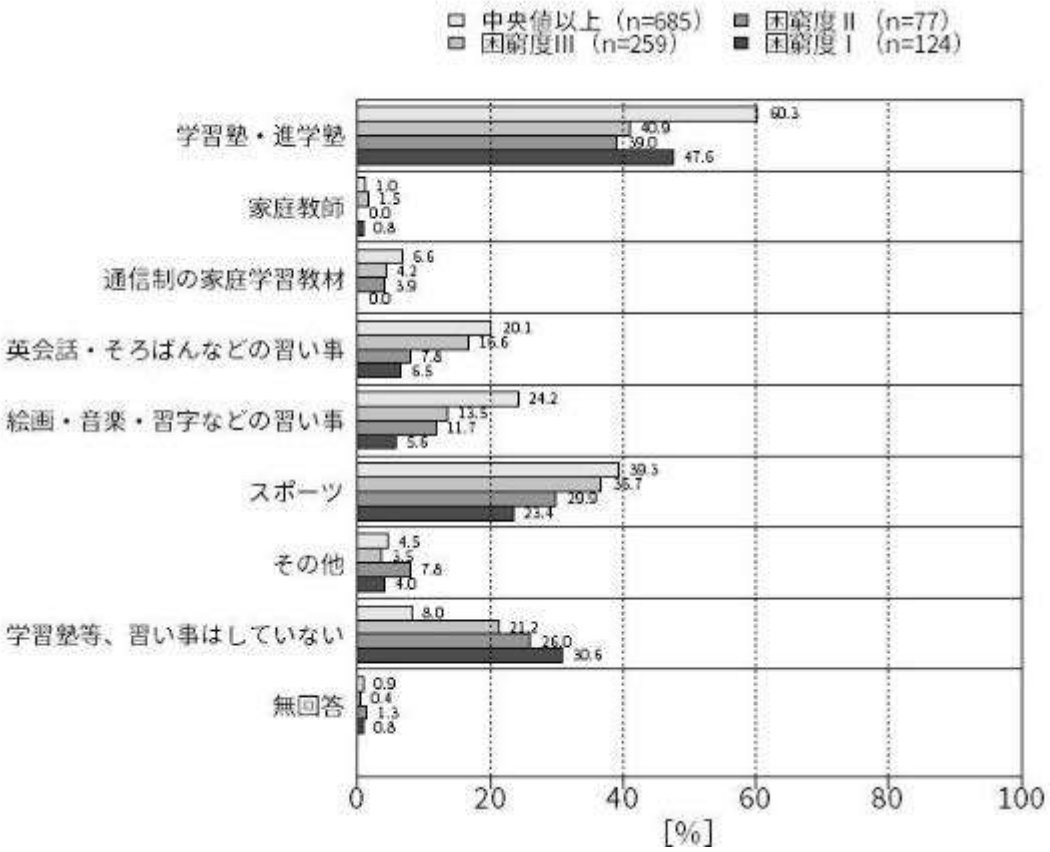
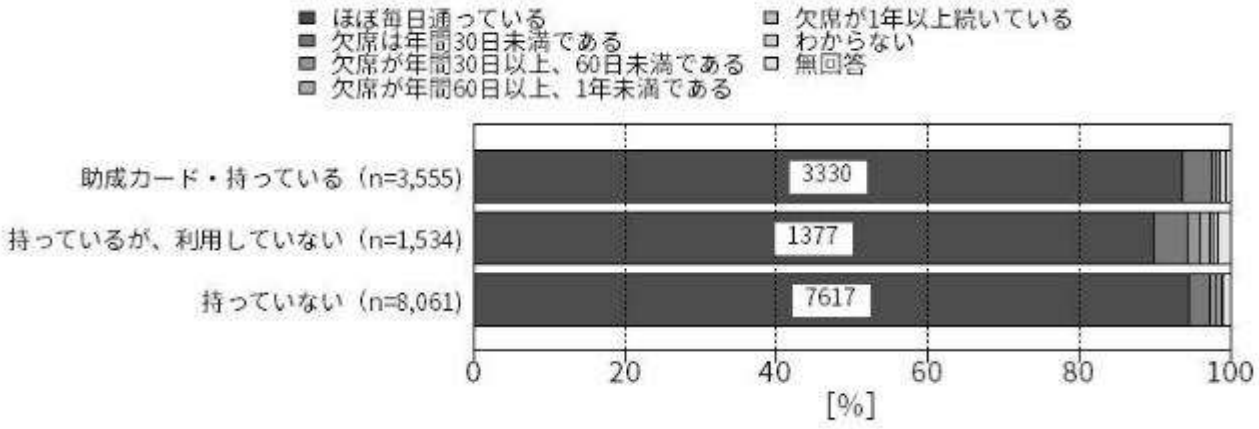


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が 47.6%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 39%、困窮度Ⅲ群では 40.9%であった。。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では 8.0%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 30.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票　問 18 × 保護者票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

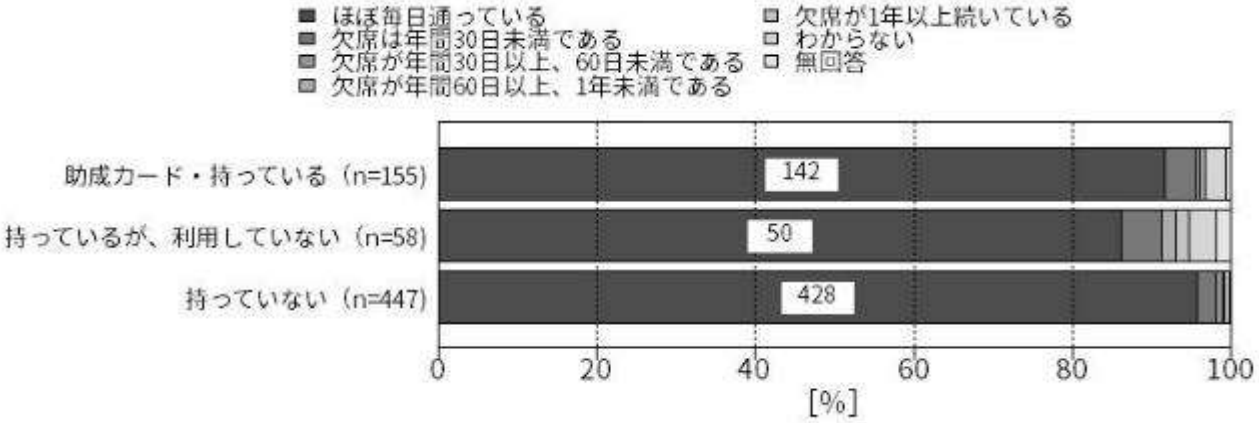
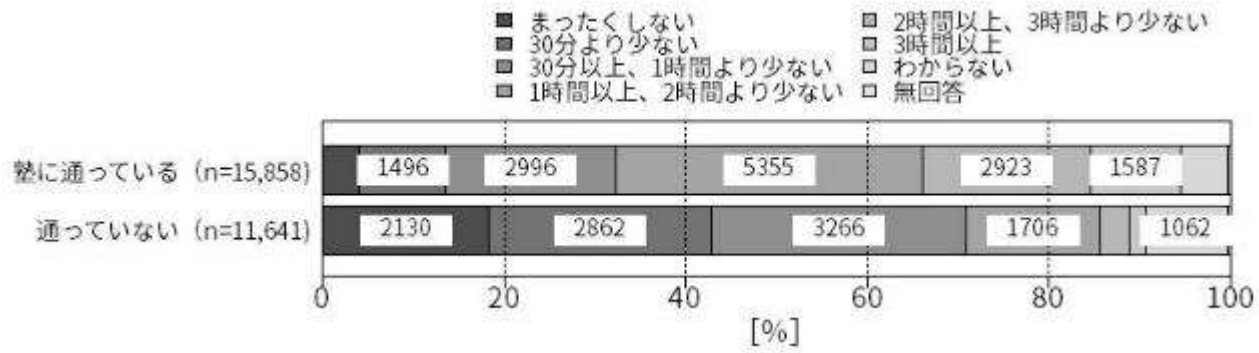


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 95.7%であったのに対し、持っているが利用していない人が 86.2%、持っている人が 91.6%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 15 × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

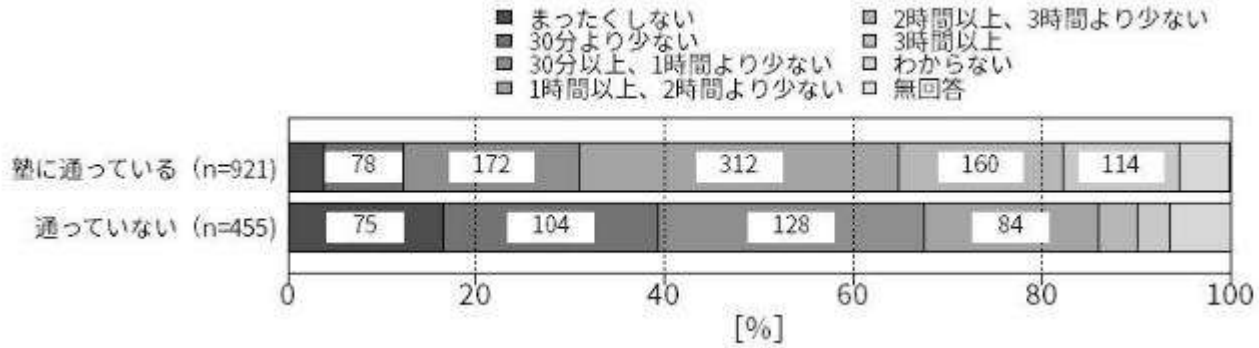
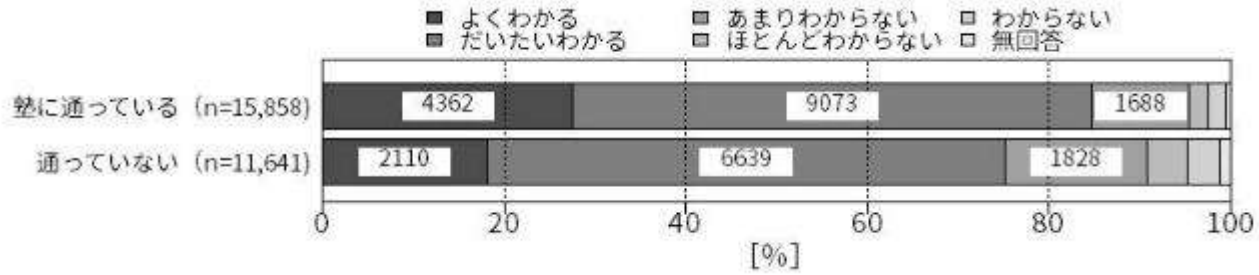


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が 16.5%であったのに対し、塾に通っている人は 3.8%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票　問 15 × 子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

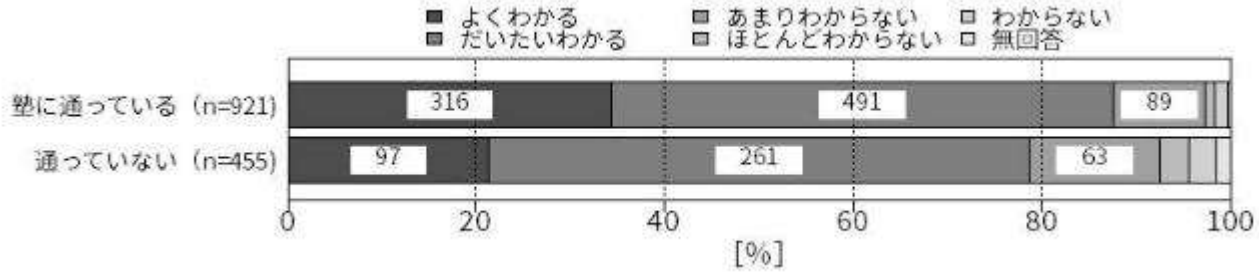
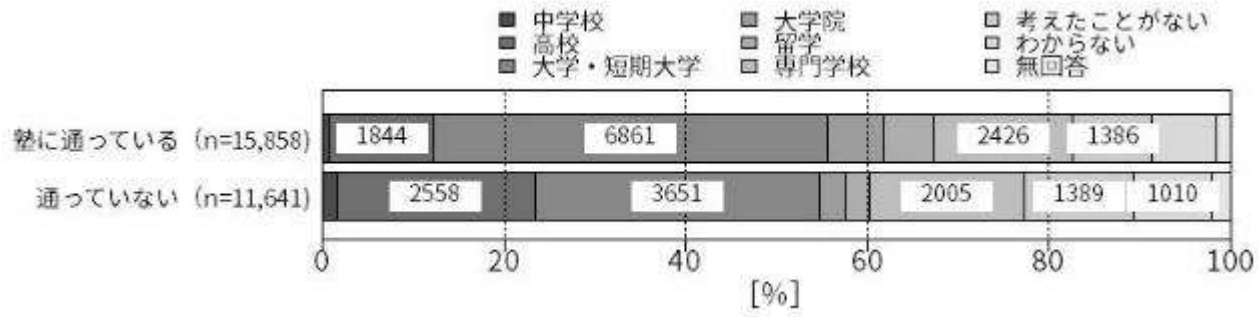


図 219．学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が 21.3%であったのに対し、塾に通っている人は 34.3%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票　問 15 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

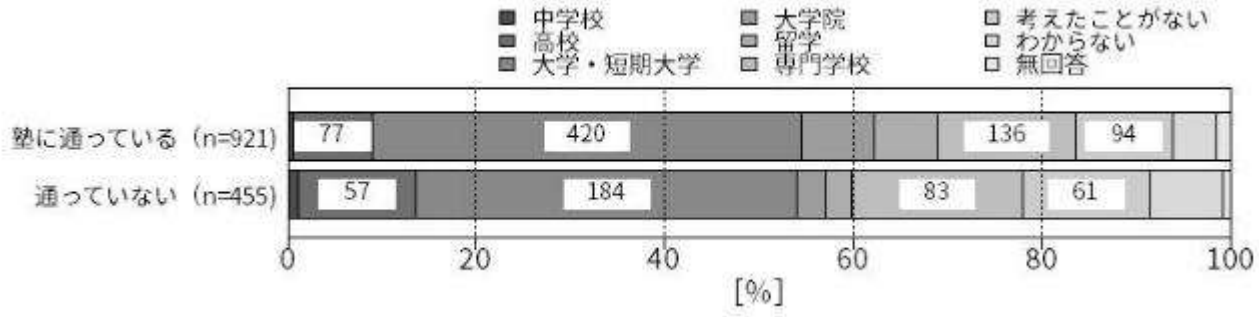
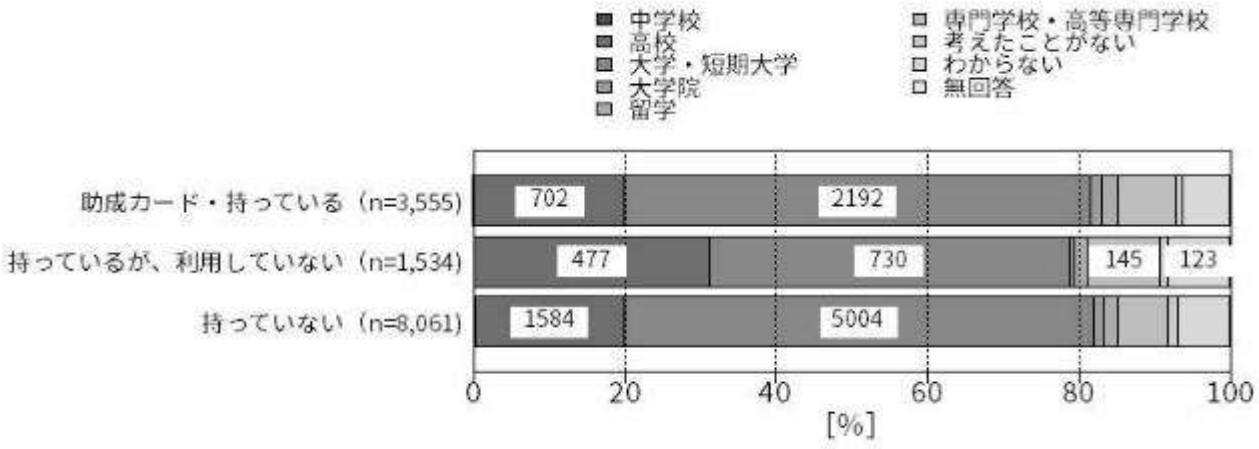


図 220．学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 40.4%であったのに対し、塾に通っている人は 45.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

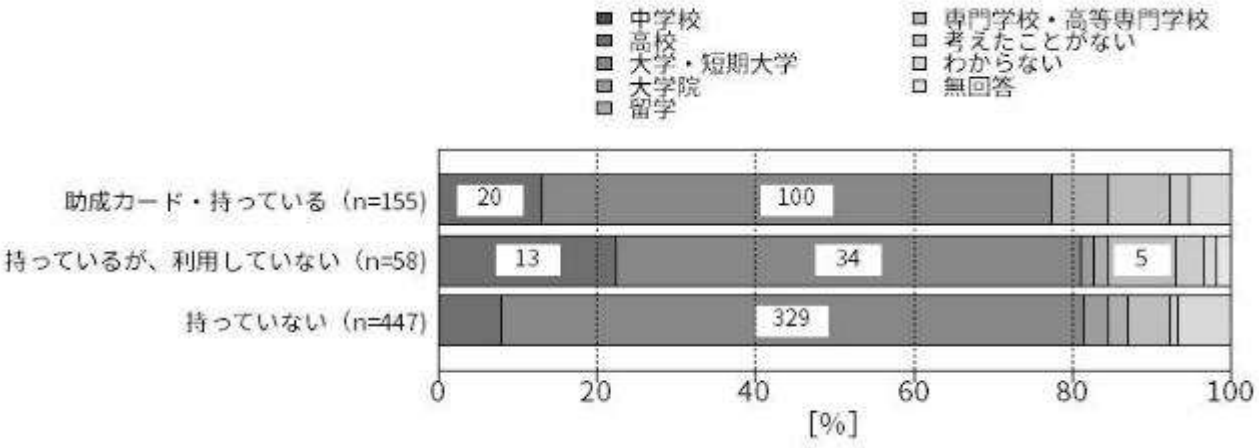
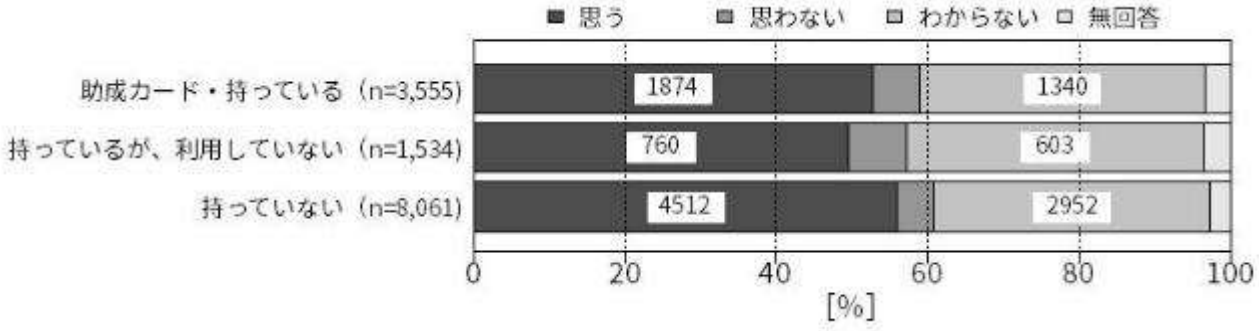


図 221．塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 73.6%であったのに対し、持っているが利用していない人が 58.6%、持っている人が 64.5%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 16）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市阿倍野区＞

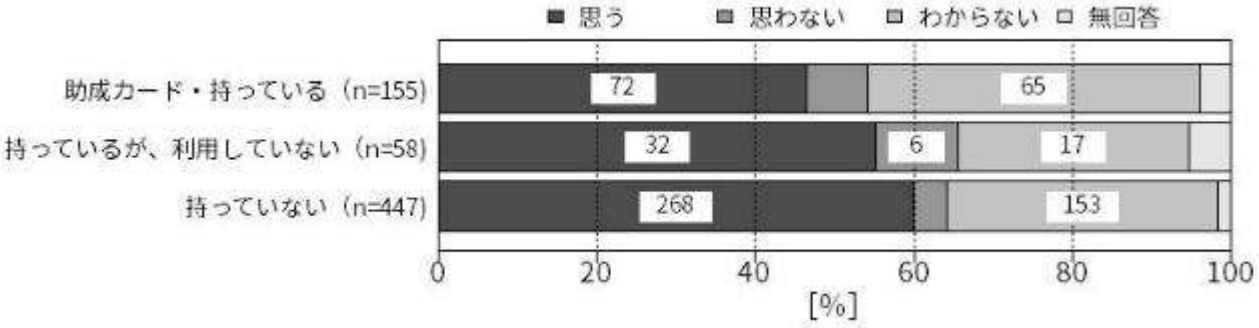


図 222．塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 60%であったのに対し、持っているが利用していない人が 55.2%、持っている人が 46.5%であった。